

鈴木莊太郎著

實地  
應用

日本商法問答

卷貳第

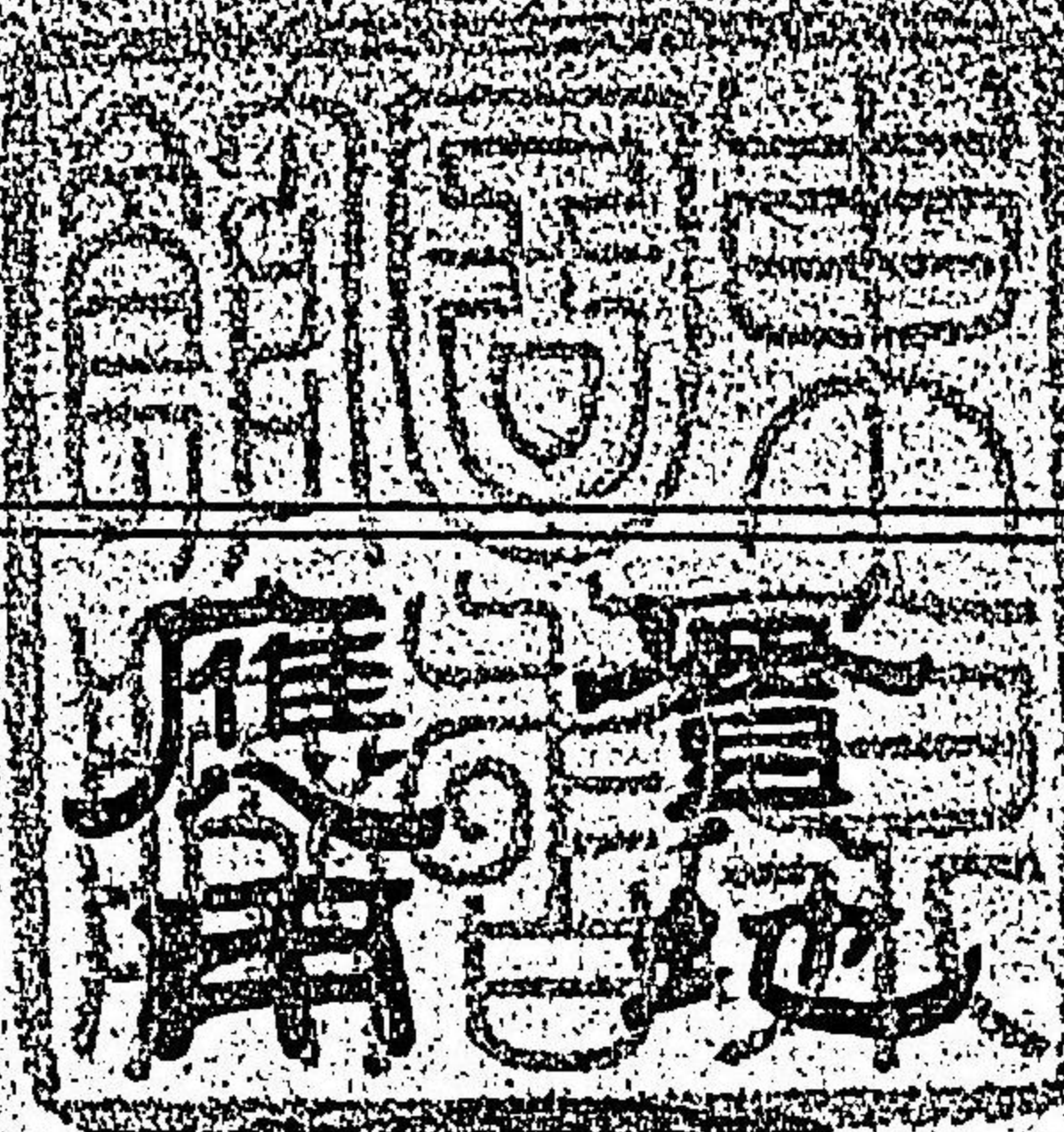
東京河合氏發行



概 則

- 一 本書ハ商法全篇ヲ六回ニ分テ本年十月ヨリ毎回一冊宛逐次發行ス
- 一 代價ハ一冊廿五錢紙數ハ二百以下以上二百五十以下以下
- 一 府外ハ代價ノ外郵税二錢ヲ申受クベシ
- 一 全額拂込又ハ十部以上ヲ購求セラル、諸君ハ代價ヨリ壹圓ヲ引クモノトス
- 一 代價到着ノ順序ニ依リ送本スルヲ以テ別段受取書ヲ送ラズ故ニ若シ之レヲ要セラル、諸君ハ別ニ郵税二錢ヲ送付セラレベシ
- 一 郵便爲替ヲ以テ代價ヲ送ラル、諸君ハ日本橋郵便本館ニ向テ販込アリシテ又切手ヲ以テ之レニ代用セラル、分ハ壹圓増トス
- 一 本書ハ一冊代價廿五錢ト定ムルモ紙數増減ニ従ヒ多少ノ増減アリモ計リ難シ

特別認可專門學校講師代官人法學士正七位 鈴木充美君叙  
 全 專修學校 特別認可專修學校卒業生 鈴木莊太郎君著



日本商法問答 卷貳第

東京河合氏發行



証書

此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、  
一、此書之發行、當於一九二一年、於東京、由東京河合氏發行、

特別認可專門學校 講師代言人法學士正七位 鈴木充美君叙  
全 專修學校 特別認可專修學校卒業生 鈴木莊太郎君著  
應 實 地  
日 本 商 法 問 答  
第 貳 卷

東京河合氏發行



第二卷目錄

第六款 會社ノ解散

第二節 合資會社

第三節 株式會社

第一款 總則

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

第三款 會社ノ商號及ヒ株主名簿

第四款 株式

第五款 取締役及ヒ監查役

第六款 株主總會

第七款 定款ノ變更

第八款 拂金ノ拂込



第九款 會社ノ義務

第十款 會社ノ檢査

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

第十二款 會社ノ解散

第十三款 會社ノ清算

第四節 罰則

第六款 會社ノ解散

第二百二十六條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立時期ノ滿了

會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

總社員ノ承諾

會社ノ破産

裁判所ノ命令



問 會社解散ノ原由ヲ承リタシ

答 會社解散ノ原由トハ本條ニ列記スル五箇ノ場合はレナリ請

此五箇ノ原由ニ付キ聊カ左ニ辨スル所アラントス

一 會社存立時期ノ滿了

(第六款 會社ノ解散)



例へハ會社契約又ハ格別ノ契約書ヲ以テ或ル年間ヲ期シ又ハ或ル事業ノ成就スルヲ限リ又ハ或ル事故ノ生スル迄ト豫ジメ契約ヲ以テ定メ置タルハ其年限ノ到達シ其事業ノ成就シ又ハ其事故ノ生シタルハ會社ハ當然解散スルモノトス然レモ總社員又ハ一部ノ社員ニ於テ尙ホ會社ヲ繼續セントスルハ其繼續セントスル總社員又ハ一分ノ社員ニテ協議ノ上保續スルヲ得(第二百二十八條參看)

### 二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

本項ニ云フ解散事由ノ起發トハ例へハ陸上運送ノ營業ヲ營ムノ目的ニテ會社ヲ設立シ其當初海上運送會社ノ起ルハ解散セント契約シ置キタルニ果シテ後日海上運送會社ノ起リシ時ノ如キ場合ヲ云フ

### 三 總社員ノ承諾

會社契約ハ總社員ノ承諾ニ出ツルヲ以テ亦總社員ノ承諾アルハ解散シ得ヘキト固ヨリ自由ナリトス然レモ第八十三條ニ述ヘタル如ク總社員ノ中一名ニテモ之レニ不服ナルハ解散スルヲ得サルモノトス

### 四 會社ノ破産

何人ト雖モ破産セシ者ハ爾後商取引ヲ爲スヲ得ス而シテ會社タル無形人ニ於テモ亦之レト等シク爾後營業ヲ爲ス能ハサルナリ否實際破産セシモハ到産會社ヲ維持スルノ目的ナケレハナリ

### 五 裁判所ノ命令

裁判所カ會社解散ヲ命令スル場合ハ第六十七條第二項及ヒ



第百廿七條ノ事故アルキニ限ルモノトス

第百二十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコトヲ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

問 本條ニ云フ處ノ會社其目的ヲ達スル能ハサル場合又ハ會社其地位ヲ維持スル能ハサル場合トハ如何

答 會社其目的ヲ達スル能ハサル場合トハ其目的トセシ事業ノ如何ナル方法手段ヲ用ユルモ到底其事業ノ目的ヲ達スル能ハサル場合ヲ云フ

會社其地位ヲ維持スル能ハサル場合トハ會社非常ノ失敗ヲ被ムリ日々衰退ノ不幸ニ陥リ到底社運ヲ挽回シ其地位ヲ保維スルノ途ナキ場合ヲ云フ

右ノ理由ヲ申立テ社員ノ一人又ハ數人ヨリ會社解散ノ命令ヲ請フキハ其申立ノ理由カ至當ナリト認定スルキハ裁判所ハ解



散ヲ命令スルモノトス

問 本條第二項ニ云フ會社解散ニ換ヘテ或社員ヲ除名スヘキコトヲ他ノ總社員ヨリ申立タルハ如何

答 會社ノ地位ヲ維持スル能ハサル原由ハ或ル社員カ社會ノ信用ヲ失シタルニ原因スルハ其社員ヲ除名セハ從テ其影響モ消滅シ終ニハ社運ヲ挽回スルヲ得ルニ至ルヘシ故ニ會社解散ニ換ヘ此社員ノ退社ヲ命セラレントテ裁判所ニ向ツテ申立ツルコトヲ得而シテ裁判所ハ其申立ヲ聽キ之ヲ至當ナリト認ムルハ其一部ノ社員ヲ除名スルノ命令ヲナスヘシ

第二百二十八條 第二百二十六條ノ第一號第二號ニ記載

シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保續スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保續シタルトキハ其離脱シタル社員ハ退社シタルモノト看

做ス

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 第二百二十六條第一二號ノ場合ニ於テハ會社ハ當然解散スルヲ以テ尙ホ會社ヲ保續セント欲セハ新タニ會社ヲ設立スルノ手續ヲ履マザル可ラス然ルニ本條ハ此手續ヲ履マズ單ニ會社契約變更ノ登記ヲ受クルノミヲ以テ保續スルコトヲ得ト規定セシハ此レ必竟理論ヲ去ツテ偏ニ便益ヲ謀ルノ趣意ニ出テタルモノト云ハザルヘカラス

問 便益ヲ謀ランカ爲メ理論ヲ去ツテ之レヲ會社契約ノ變更ト看做セシハ可ナリ然ルニ本條ハ社員ノ一分ニテモ保續スルコトヲ許シ之レヲ欲セサル他ノ社員ハ退社セシモノト看做ストア



リ而シテ第八十三條ニハ一人ニテモ不承知ノ者アルキハ變更  
スルヲ得ストアリスク兩條ノ規定相反スルモノハ如何ナル譯  
ナルヤ

答 質問ノ如ク理論上ハ兩條相矛盾スト雖モ本條ハ實際上ノ便益  
ヲ計リテ斯ク規定セシモノトス

第百廿九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク  
外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數人ヲ任  
シ七日内ニ解散ノ原由年月日及ヒ清算人ノ氏名住  
所ノ登記ヲ受ク可シ

問 會社解散ノ場合ニ於テ第一着ニ爲スヘキ行爲ハ如何  
答 會社解散スル時第一着ニ行フヘキ義務左ノ如シ

- 一 總社員ノ多數決ヲ以テ清算人ヲ立ツル
  - 二 七日間ニ解散ノ原由(第百廿六條五箇ノ原由)年月日及ヒ清  
算人ノ氏名住所ノ登記ヲ受ク可シ
- 然レモ破産ノ宣告ヲ受ケタルキハ右二箇ノ手續ヲ要セサル  
モノトス何ントナレハ破産ノ場合ハ財産管財人ヲ定メ又破  
産決定書ヲ揭示シ又ハ新聞紙ニ之レヲ公告スルヲ以テナリ

第百三十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ結了シ會社ノ義  
務ヲ履行シ未収ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却  
ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又  
ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得ス又清算人ハ裁判上會  
社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ



爲スコトヲ得

問 清算人ノ職務權限ヲ承リタシ

答 清算人ノ職務及ヒ職權ハ左ノ如シ

一 會社ノ現務ヲ結了スルコト

現務ヲ結了スルトハ會社ノ既ニ着手シテ未タ竣工セサル事業ヲ完了シ取引ヲ濟成スルヲ云フ

二 會社ノ義務ヲ履行スルコト

義務ヲ履行スルトハ會社ガ會テ借用セシ金額物件ヲ返還シ其他總テ負擔シタル處ノ義務ヲ履行スルヲ云フ

三 未收ノ債權ヲ行用スルコト

未收ノ債權ヲ行用スルトハ會社ノ貸附タル金額物件ヲ請求シ其他總テ會社ノ有スル權利ヲ實行スルヲ云フナリ

四 現存ノ財産ヲ賣却スルコト

現存ノ財産ヲ賣却スルトハ會社ノ財産ナル商品器械諸道具及ヒ土地建物等ヲ賣却スルヲ云フ

五 裁判上會社ノ代理ヲ爲シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁ヲ爲スヲ得

清算人ハ別段ニ訴訟ノ委任ヲ受ケザルモ原告又ハ被告トナルヲ得又清算事務中紛糾ノ生セシキハ仲裁ニ附シ又和解契約ヲ爲スコトヲ得ルナリ

然レモ清算人ハ其清算ノ目的ヲ超ヘテ營業ヲ保續シ又ハ新タニ取引ヲ爲スヲ得ザルモノトス併シ會社ガ解散前ニ買入タル製造ノ原料品許多有ルキ其儘之レヲ賣却スレハ其價甚タ廉ニシテ會社ニ採ツテ甚タ不利益ナルコトノ明カナルキハ新タ

(第六款 會社ノ解散)



問 ニ職工ヲ雇入之ヲ製造シテ販賣スルコトヲ得ルナリ  
解散ノ時ニ於テ未タ請求スルノ期日ニ達セサル債權又ハ未タ  
辨濟期限ニ至ラザル負債アルキハ清算人ハ如何ニ處置シテ清  
算事務ヲ完了スルヤ

答 清算人ハ至急其清算事務ヲ完了セント欲セハ双方協議ヲ遂ゲ  
其期日ヲ待タズシテ辨償シ又ハ要求スルトモ又其期日ヲ待ツ  
テ辨償シ又ハ要求スルモ二者孰レヲ採ルモ清算人ノ隨意ナリ  
トス

第三百三十一條 清算人ノ權ハ社員之ヲ制限スルコト  
ヲ得ス且ツ重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因リ  
裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スル  
コトヲ得ス但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ

得

問 前條ニ規定スル處ノ清算人ノ職務權限ハ社員之レヲ制限シ又  
任意解任スルコトヲ得ル歟

答 清算人ハ會社ノ代理人ナルヲ以テ其權限ヲ制限シ又ハ隨意ニ  
解任スルヲ得ルモノ、如シト雖モ法律ハ清算人ニ附與スルニ  
普通代理人ニ異ナル重大ノ權利ヲ以テセリ是レ清算事務ヲ施  
行スルニ當ツテ公平ト自由トヲ得セシメンカ爲メナリ然レモ  
此ノ重大ノ權利モ或ハ社員ニ於テ之レニ制限ヲ加ヘ又隨意ニ  
解任スルヲ得ルモノトセハ法律ガ附與セシ重大ノ權利モ遂ニ  
其實効ナキニ至ランコトヲ慮リ本條ニ於テ社員ハ清算人ノ權ニ  
制限ヲ加ヘ又ハ隨意ニ解任スルヲ得ズト規定シ以テ第三百三十  
條ノ實効ヲ失ハシメンコトヲ豫防シタリ



故ニ縱令ヒ社員ガ清算人ノ權限ニ制限ヲ加フルモ其制限ハ第三者ニ對スルハ勿論社員ト清算人トノ間ニ在ツテモ亦其効ナキモノトス

然レモ重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニヨリ裁判所ハ清算人ヲ解任スルノ命令ヲ爲スコトアリ其重要ナル事由トハ例ヘハ清算人ガ其權利ヲ擅ニシ會社ノ金圓ヲ流用シテ私利ヲ營ミ又ハ債權ヲ拋棄スルガ如キ場合ヲ云フ

此ノ命令如何ハ會社ノ利害ニ關シ又清算人ノ名譽ニ關スル重大ノ事柄ナルヲ以テ關係者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第五百五條及ヒ第二百二十四條ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ

自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ得

問 本條末文ニ清算中ト雖モ自由トナリタル財産ハ之レヲ社員ニ分配スルコトヲ得ト在リ其自由ニナリタルトハ如何ナル場合ヲ指ス歟

答 自由ニナリタル財産トハ會社ノ貸方借方トヲ精算シテ其比較上ヨリ餘リタル財産ヲ云フナリ此等ノ財産ハ假令ヒ結了セサル前ニ當ツテ社員ニ分配スルモ之レカ爲メ第三者ニ對シ利害ノ影響ヲ及ホサ、レハナリ

第三百三十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ濟了スルニ要セサル會社財産ニ限ル



問 社員ニ分配スヘキ會社ノ財産ハ如何

答 社員ハ會社財産ニ對シテハ第二位ノ權利者ニ屬スルヲ以テ第一位ノ權利者タル第三者ノ負債ヲ悉皆辨濟シ其剩餘ノ財産アルニ非サレ社員ハ之レカ配分ヲ受クルヲ得サルモノトス

第三百三十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他

ノ書類ハ社員第三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分ス

本條ハ別段質問ノ點ナシ

第三百三十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任

ハ其義務ニ付キ五ヶ年未滿ノ時効ノ定ナキトキニ限り解散後五ヶ年ノ滿了ニ因リテ時効ニ罹ル但債權者カ未タ分配セラレサル會社財産ニ對シテ請求

ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 本條ハ會社財産ヲ以テ其負債ノ辨濟ニ充テ尙ホ不足ノ生セシ片債權者ヨリ社員ノ私有財産ヲ以テ辨償ニ充テントヲ要求スル時ノ時効ヲ定メタルモノニシテ普通商事ニ付テノ時効ト異なる處ナリ(通常ハ六ヶ年)然レ此五ヶ年ノ時効ハ社員ト會社ニ對スル權利者(第三者)トノ請求事件ニ限り適用セラル、モノニシテ社員相互間及ヒ會社ト其權利者(第三者)トノ間ノ事件ニ適用スルヲ得サルモノトス

此五ヶ年ノ時効ハ法律ヲ以テ之レヨリ短キ時効ノ定メナキ場合ニ適用セラル、モノナリ故ニ本法第九百七十六條及ヒ第七百十二條ニ規定スル如ク一ヶ月一ヶ年又ハ三ヶ年ノ時効ノ定

(第六款 會社ノ解散)



メアル片ハ本條ニ規定スル處ノ五ケ年ノ時効ヲ適用スルヲ得サルナリ

此五ケ年ノ時効ハ債權者カ未タ分配セラレサル會社財産ニ對シ請求スル片ニ適用スルヲ得サルモノトス其所以ハ前既ニ述タル如ク本條ノ規定ハ會社財産ヲ分配シ尙ホ不足ヲ生シタル片無限責任ノ廉ヲ以テ社員ノ私有財産ニ對シ請求スルヲ得ル場合ノミニ適用セララル、モノナレハナリ

## 第二節 合資會社

本節ハ合資會社ノミニ付テノ特別ナル規定ナルヲ以テ其特別ナル規定ノ外ハ合名會社ノ規定ヲ適用スルヲ得可キモノトス

第一百三十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金錢又ハ有價物

ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

合資會社ノ社員ノ數ハ之ヲ制限セス

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 本條ハ合資會社ノ定義ヲ下シタルモノナリ此定義ニ依レハ合資會社ハ通常有限責任ニシテ其責任會社ノ財産ニ止リ社員ノ私有財産ニ及ハサルモノトス然レモ合資會社ハ無限責任社員ヲ禁シタルニ非サレハ會社ニシテ一層廣大ナル信用ヲ博サント欲セハ名望アリ且資産アル者ヲ交ヘ無限責任社員ト爲ストヲ得而シテ其者ノ氏ハ商號ニ用ユルヲ得ルナリ是レ本條ニ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定メナキ時ハ云々ノ數語ヲ加ヘタル所以ナリ

問 本條ニハ勞力ヲ出資ト爲スコトヲ規定セサレハ之レヲ禁シタ

(第二節 合資會社)



ルモノト解シテ不可ナキヤ

答 合資會社ハ有限責任ナルヲ以テ負債ノ辨償ニ充ツルモノハ會社財產ノミナリトス故ニ勞力ノ如キ之レヲ以テ直ニ辨償ニ充ツヘキ確乎タル價值ナキモノハ出資ト爲スヲ得サルナリ然レモ無限責任社員ハ其責任出資ノミニ止ラス私有財產ニマテ及ホスヲ以テ勞力ヲ出資ト爲スヲ得ヘキモノトス(第三百三十七條參看)

問 本條第二項ノ社員ノ數ヲ制限セサルモノハ如何

答 合名會社ハ無限責任ナルヲ以テ世人ノ信用ハ特リ其財產ノミニ止ラス社員ノ名望ト私有財產ノ多寡トニ關スルモノトス故ニ會社財產ハ些少ナリト雖モ其實廣大ナル運動ヲ爲スヲ得之レニ反シ合資會社ハ有限責任ナルヲ以テ世人ノ信用ハ其資

本額ニ止ルヲ以テ會社ハ實際其資本ノ外運動ノ途ナシ故ニ大ナル運動ヲ爲サント欲セハ從テ資本ノ多額ヲ要ス資本ノ多額ヲ募集セント欲セハ勢ヒ他數ノ人員ニ求メサルヘカラス是レ合資會社ニ在ツテハ社員ノ數ニ制限ヲ設ケサル所以ナリトス

第三百三十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外

總テ合名會社ノ規定ニ從フ

本條ハ別ニ質問ノ點ナシ

第三百三十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ策二號乃至第六號ニ列記シタルモノノ外尙ホ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

第一 合資會社ナルコト



第二 會社資本ノ總額

第三 各社員ノ出資額

第四 無限責任社員アルトキハ其氏名

第五 業務擔當社員又ハ取締役アルトキハ其氏名  
及ヒ其責任ノ有限又ハ無限ナルコト

問 合資會社ノ登記及ヒ公告スヘキ事項ハ如何

答 登記及ヒ公告スヘキ事項ハ左ノ如シ

第七十九條第二號乃至第六號ノ事項ト本條規定スル五箇ノ事  
項トヲ合セテ十箇ノ事項ナリトス

問 本條第二第三ノ事項ヲ登記スル理由ハ如何

答 合資會社ハ有限責任ナルヲ以テ世人ハ社員其者ヲ信用スルニ

アラスシテ單ニ資本額ヲ信用スルモノナレハ其資本額ヲ登記  
及ヒ公告スルハ最も必要ノ事項ナリトス

又合資會社々員ハ無限責任社員ヲ除ク外其責任ハ出資額ニ止  
ル者ナルヲ以テ其責任程度ヲ明カニセン爲メ各社員ノ出資額  
ヲ登記及ヒ公告スル亦必要ノ事項ナリトス

問 本條第四第五ノ事項ヲ登記スル理由ハ如何

答 合資會社ハ第三百三十六條ニ掲クル如ク有限責任社員ヲ普通ト  
ス故ニ無限責任社員ヲ置キ會社ノ信用ヲ増加セント欲セハ別  
ニ會社契約ヲ以テ之レヲ定ムヘシ會社契約ヲ以テ之レヲ定メ  
無限責任社員ヲ置クキハ其氏名ヲ登記スルハ會社ノ信用ノ爲  
メ最も必要ナリトス

又業務擔當社員又ハ取締役ヲ置クト其者ノ責任ヲ有限又ハ無



限トスルハ一ニ會社契約ノ定ムヘキモノニシテ之レヲ登記スル理由ハ亦前項ニ同シ

第三百三十九條 商號ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得

ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又商號ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ若シ商號ニ社員ノ氏ヲ用井タルトキハ其社員ハ此カ爲メ當然會社ノ義務ニ對シ無限ノ責任ヲ負フ

問 合資會社ノ商號ニハ社員ノ氏ヲ用ユルヲ得サル歟

答 社員ノ氏ヲ商號ニ用ユルヲ許スハ無限責任ノ會社ノミナリトス故ニ無限責任ナル合資會社ニ在ツテハ社員ノ氏ヲ商號ニ用ユルヲ許サ、ルナリ然レモ合資會社々員ノ中ニ無限責任

ノ社員アルキハ合名會社ノ規定ヲ適用シテ其社員ノ氏ヲ商號ニ用ユルコトヲ得ルナリ併シ何レノ場合ニ在ツテモ合資會社ナル文字ハ必ズ用ヒサルヘカラス

問 本條第一項ノ規定ニ違背シ有限責任社員ノ氏ヲ用ヒタルキハ

如何ナル制裁アルヤ

答 無限責任社員ニ非サレハ商號ニ其氏ヲ用ユルヲ得ズ故ニ若シ之レニ違背シ有限責任社員ノ氏ヲ商號ニ用ユル者アル井ハ法律ハ其者ニ負ハシムルニ無限責任ノ義務ヲ以テス然ラサレハ其社員ノ財産名望ヲ信シ取引シタル第三者ハ大ナル損害ヲ蒙リ亦會社ハ容易ニ世人ヲ瞞着シ不義ノ利ヲ獲得セントスルニ至レハナリ

第四百十條 無限責任ノ社員取締役ヲ除ク外社員ハ



自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ會社ノ商部類ニ  
屬スル取引ヲ爲シ又ハ之レニ與カルコトヲ得

問 合資會社々員ハ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲スノ自由アル  
歟

答 本條ハ合資會社々員ハ合名會社々員ト異ナリテ會社ノ商部類  
ニ屬スル取引ヲ爲スコトヲ許シタリ然レモ無限責任社員及ヒ  
取締役等ハ之レヲ禁止セリ其所以ハ無限責任社員ハ合名會社  
々員ト同一ナルヲ以テ第四百四條ヲ應用セシモノトス又取締役  
ハ有限責任社員ナリト雖モ會社ノ業務ニ從事スル者ナルヲ以  
テ之レヲ禁止セザルハ自己ノ利益ヲ謀ラシカ爲メ遂ニ會社  
ノ不利益ヲモ省ミサルノ弊害ヲ來スヲ以テ同シク之ヲ禁ジタ  
リ

問 合名會社々員ニ就テハ總社員ノ承諾ヲ受クレハ會社ノ商部類  
ニ屬スル營業ヲ爲スコトヲ許シタリ本條ノ場合モ又總社員ノ承  
諾ヲ受クレハ同一部類ニ屬スル取引ヲ爲スヲ得ル歟

答 然リ合名會社々員ニ此特例ヲ設ケ本條規定スル處ノ取締役又  
ハ無限責任社員ニ此特例ヲ許サ、ルノ理由ナケレハ無論總社  
員ノ承諾ヲ得ハ同一部類ノ商取引ヲ爲スコトヲ得ルモノト知  
ルヘシ

第四百四十一條 各社員ハ契約上他ノ定メナキトキハ  
同等ニ會社ヲ代理スル權利義務ヲ有ス

本條ハ別段質問ノ點ナシ

第四百四十二條 社員七人ヲ超ユル會社ニ在テハ其契



約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ取締役ヲ任シ  
又設立後七人ヲ超ユルトキハ會社ノ決議ヲ以テ之  
ヲ任ス但其決議ノ効力ハ總社員四分三以上ノ多數  
決ニ依リテ生ス

取締役ハ何時ニテモ會社ノ決議ニ依リテ解任セラ  
ルルコト有ル可シ其決議ノ効力ハ亦總社員四分三  
以上ノ多數決ニ依リテ生ス

問 本條ニ云フ取締役トハ從來會社ニ於テ名稱シ來リシ者ト同一  
ナル歟

答 從來名稱シ來リシ取締役ナル者ハ監督役ナレモ本法ニ云フ取  
締役ハ從來ノ頭取又ハ社長ト殆ント同一ナルモノトス

問 合資會社々員ノ數カ七人以上ナルキニ取締役ヲ設クルノ理由  
ハ如何

答 合資會社ハ合名會社ト異ナリテ社員ノ數ニ制限ヲ置カサルヲ  
以テ各社員カ業務ニ當ルモノトセハ遂ニ多數ノ事務員集合ス  
ルニ至リ爲メニ事務ノ整理ヲ缺キ徒ラニ混雜ヲ究ムルノミナ  
ラス却テ之レカ爲メ事務停滯シ且ツ紛紜ヲ醸スノ種子トナラ  
ンコトヲ憂ヒ此規定ヲ設ケタルモノトス

問 本條ニ取締役ヲ任スルニ様ノ方法ヲ設ケタルハ如何

答 第一契約ノ以テ取締役ヲ任スル場合ハ會社創立ノ當時既ニ社  
員ノ數七人ヲ超ユルキニ適用スルモノトス  
第二ノ會社ノ決議ヲ以テ任スル場合ハ會社設立當時ハ社員ノ  
數七人以下ニシテ設立後ニ至ツテ七人ヲ超ユル時適用セラレ



、モノトス

而シテ其決議ハ總社員四分ノ三以上ノ多數決ニ依ルニアラサレハ其効ナキモノトス

問 總會ハ取締役ヲ何時ニテモ解任スルヲ得ル歟

答 總社員四分ノ三以上ノ多數決ニ依ルキハ何時タリモ解任シ得ヘキモノトス

爰ニ注意スヘキハ四分ノ三以上トハ總社員ノ四分ノ三ニシテ出席員ノ四分三以上ニアラサルナリ

第四百十三條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ

裁判上ト裁判外トヲ問ハス總テ會社ノ事務ニ付キ

會社ヲ代理スル專權ヲ有ス然レモ會社契約又ハ會

社ノ決議ニ依リテ羈束セラル

數人ノ業務擔當社員又ハ取締役アル場合ニ於テ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリヤ又ハ其總員若クハ共同ニ非サレハ之ヲ取扱フコトヲ得サルノタリヤハ會社契約又ハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ定

ム

問 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ如何ナル權力アル歟

答 此等ノ役員ハ裁判上ト裁判所外トヲ問ハス總テ會社事務ニ付キ會社ヲ代理スルノ專權アルモノトス然レモ此專權ハ會社契約又ハ會社ノ決議ニ因ツテ幾分ノ制限ヲ加ヘラル、トアリ其制限ハ概テ左ノ如シ



- 一 會社ノ或ル事務ヲ取扱フニ付テ代理ノ專權ナキヲ
- 二 會社ノ事務ヲ取扱フニ付テハ各別ニ取扱フヲ得サルヲ此場  
合ハ數人ノ業務担当者又ハ取締役アル場合ヲ視テ規定セシ  
モノナリ

第四百十四條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ

代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ之ト取引ヲ爲  
シタル第三者ニ對シテ其効ナシ

問 業務担当者又ハ取締役ノ代理權ニ加ヘタル制限ノ効力ハ如何  
答 合資會社ノ業務担当者又ハ取締役ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ  
第四百十一條ノ合名會社ノ業務担当者ノ任アル社員ノ代理權ニ加  
ヘタル制限ト其効力大キニ異ナル處アリ第四百十一條ノ場合ハ

第三者カ其制限ヲ知ルト否トニ拘ハラズ其制限ノ効力ナキモ  
ノナレハ本條規定スル處ハ之レニ反シテ第三者其制限ヲ知ラ  
スノ(善意ヲ云フ)業務担当者又ハ取締役ト取引セシキハ其制限  
ノ効ナキモノトス故ニ會社ハ善意ナル第三者ニ對シテハ其制  
限ヲ主張シ責任ヲ免カルトテ得サルモノトス

第四百十五條 有限責任社員ハ業務擔當ノ任アル社  
員又ハ取締役ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡ス  
コトヲ得此場合ニ於テハ取得者ハ讓渡人ノ權利義

務ヲ襲承ス  
シユウケンヨウ  
ウツク

問 會社々員ノ持分ヲ讓渡スニハ如何ナル手續ヲ要スル歟  
答 持分ヲ讓渡スニハ業務担当者社員又ハ取締役ノ認可ヲ得テ初メ



テ他人へ譲渡スヲ得而シテ此手續ヲ經テ讓受ケタル者ハ爾後讓渡人ノ權利義務ヲ引繼クモノトス

然レモ此場合ハ有限責任社員ニ就テ云フ者ニシテ無限責任社員ハ第九十八條ノ規定ニ從ハサルヲ得サルモノトス

第四百十六條 會社契約ニ於テ又ハ第四百四十二條ニ定メタル會社ノ決議ニ依リテ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ總員數人若クハ一人カ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫シメ定ムルコトヲ得

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ其業務施行上ヨリ生セシ

會社ノ義務ニ付テハ只有限ノ責任ヲ負フノミ然レモ會社ハ此等ノ役員ヲ任スルニ際シ會社契約又ハ會社ノ決議ヲ以テ豫シメ其施行中生シタル會社ノ義務ニ付キ無限ノ責任ヲ負ハシムルヲ定ムルヲ得ルナリ

右ノ如ク此等ノ役員ニ無限責任ヲ負ハシムト雖モ其責任ハ業務施行中即チ在職中ニ生シタル義務ニ限ルモノトス故ニ業務擔當ノ任又ハ取締役ノ職ヲ退キシ時ハ其日ヨリ以後ニ生シタル義務ニ付テハ有限責任ノ義務ヲ負フニ止ルモノトス  
如此無限ノ責任ヲ負ハシムルニハ業務擔當ノ任又ハ取締役ノ職ヲ撰任スル時ニ會社契約又ハ決議ヲ以テ豫シメ定メ置カザルベカラス決シテ其義務ノ生シタル時々之レヲ定ムルヲ得サルモノトス



問 業務擔當社員又ハ取締役ニ如此重大ナル義務ヲ負ハシムルハ如何ナル必要ヨリ出シモノ歟

此等役員ノ責任ガ有限即チ出資額ニ止ルルハ其責任輕キカ爲メ業務ヲ緩慢ニ附シ或ハ輕卒ニ企業ヲ企ツル等ノ憂ヘアリ故ニ此重大ナル責任ヲ負ハシメ以テ將來ノ危險ヲ防禦スルノ必要ニ出シモノトス

第四百四十七條 前條ニ掲ケタル無限ノ責任ハ業務擔

當ノ任アル社員又ハ取締役ノ退任後一ケ年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 本條ハ前條ニ規定スル如ク業務担当者又ハ取締役ガ負フ無限

責任ノ時効ヲ定メタリ(時効トハ從來ノ出訴期限ニ類似ス)而シテ其時効ハ一ケ年ニテ滿了スルヲ以テ此期限ヲ經過スルルハ此等役員ハ全ク其無限責任ノ義務ヲ免カル、モノトス

第四百四十八條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ

毎年少ナクトモ一回通常總會ヲ招集シ其他業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ於テ必要ト認ルトキハ總社員四分一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ招集ス可シ

問 合資會社ノ總會ハ如何

答 合資會社ノ總會ニ二種アリ

一 通常總會

(第二節 合資會社)



通常總會ハ毎年一回以上必ず開クモノニシテ之レヲ招集スル者ハ業務担当ノ任アル社員又ハ取締役ナリトス

二 臨時總會

臨時總會ハ臨時必要事件ノ出來ニ應シテ開クモノナレハ其時期回数ト豫シメ一定セサルモノトス而シテ之レヲ招集スル者ハ業務担当者又ハ取締役ナリトス

通常社員モ亦臨時總會ヲ必要ト看認ムルハ總社員四分之一以上ノ承諾ヲ得業務担当者又ハ取締役ヘ其開會ヲ求ムルコトヲ得而シテ其求メヲ受ケタル担当者又ハ取締役等ハ之レヲ拒ムノ權ナキモノトス

第四百十九條

總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ少ナク

トモ七日前ニ各社員會議ノ目的ヲ通知シ及ヒ提出

ス可キ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

本條ハ別ニ質問ノ點ナシ

第四百十條

事業年度ノ終リタル後直チニ通常總會

ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業竝ニ其成果ノ

報告書ヲ社員ニ提出シテ檢査及ヒ認定ヲ受ク其認

定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

問 本條ニ云フ事務年度トハ如何

答 爰ニ云フ事務年度トハ歷年ヲ指スモノニアラスシテ會社精算ノ期ヲ指スモノナリ即チ毎年六月十二月ノ二回ニ精算スル會社ニ在ツテハ其事務年度ハ六月十二月ノ二回ナリトス

第四百十一條

臨時總會ニ於テ議ス可キ事項ハ總社

(第二節 合資會社)



員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
然レトモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要ス可キ  
事項ハ總社員四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス此  
場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直チニ退任スル權利  
アリ

問 前第五十條ノ通常總會ハ出席員ノ多數決ニ依リ臨時總會ハ  
總社員ノ過半数ニ依ルモノトシタルハ如何ナル理由ナル歟  
答 臨時總會ノ決議ハ出席員ノ多數決ニ依ラスシテ總社員ノ過半  
數ノ決ニ依リシ所以ノモノハ臨時總會ハ通常總會ト異ナリテ  
其決議ハ何レモ會社ノ安危存亡ニ拘ハル事重大ノ件ヲ議スル  
ヲ常トスルヲ以テ特ニ其議決法ヲ鄭重ニセシモノナリ

第一百五十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ  
社員出席セサルトキハ其總會ニ於テ假ニ決議ヲ爲  
スコトヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知  
シテ再ヒ總會ヲ招集ス其通知ニハ若シ第二ノ總會  
ニ於テ出席社員ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ  
認可シタルトキハ之ヲ有効ト爲ス可キ旨ヲ明告ス  
ルコトヲ要ス

問 前條ニ掲ケタル如ク臨時總會ノ決議ヲ鄭重ニセシハ可ナリ然レ  
モ今日總會ノ狀況ヲ洞察スルニ出席者尠クシテ實際上到底行  
ハレサルモノ、如シ此ノ如キ場合ニハ如何ニシテ其局ヲ結フ  
ヘキヤ



答 本條ハ其事情ヲ察シ一ノ便法ヲ設ケタリ即チ第一回ノ臨時總會ニ於テ總社員ノ過半数出席セサルキハ其總會ニ於テ假リニ決議ヲナシ其決議ヲ總社員ニ通知シ再ヒ總會ヲ招集ス而シテ其第一回ノ假決議ヲ通知スルト共ニ若シ第二回ノ總會ニ於テ出席社員ノ多数ヲ以テ第一回ノ總會ニテ決議セシ事項ヲ認可スルトキハ之レヲ有効トナス可キ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

右二箇ノ手續ヲ盡シタルトキハ第二會總會ニ於テハ其出席員ノ多数決ヲ以テ議案ノ可否ヲ決スルヲ得然レモ若シ第二回總會ニ於テ第一回ノ假決議ヲ否決シタルトキハ再ヒ前條ノ手續キヲ踐ンテ正則ノ總會ヲ開クカ或ハ其議題ヲ廢棄スルカ二者其一ヲ擇ムノ外途ナキモノトス

第一百五十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額カ損失

ニ因リテ減シタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡スコトヲ得ス

問 利益配當ヲ爲スハ會社ノ自由ナル歟

答 本條ハ之レニ制限ヲ附シタリ即チ會社ノ資本額ガ損失ニヨリ減少シタルトキハ先ツ利益ヲ以テ其減少額ヲ補充シ然ル後チ尙ホ剩餘ノ純益アルニアラサレハ利益配當ヲ爲スヘカラサルモノトセリ是レ會社ガ世人ノ信用ヲ買ハンカ爲メ純益ナクシテ妄リニ利益配當ヲナシ以テ他人ヲ瞞着シ債權者ニ損害ヲ被ムラシムルノ弊害アルヲ以テナリ

故ニ若シ本條ノ規定ニ違背シテ不正ノ配當ヲ受ケタル各社員



ハ之レヲ返還セサル可ラズ又配當ヲ爲シタル取締役及ヒ業務  
担当者ハ第二百五十八條ニ規定シタル處ノ過料ニ處セラル、  
モノトス

### 第三節 株式會社

#### 第一款 總則

第一百五十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分テ其義務ニ對  
シテ會社財産ノミ責任ヲ負フモノヲ株式會社ト爲  
ス

第一百五十五條 株式會社ハ其目的カ商業ヲ營ムニ在  
ヲサルモノモ亦之ヲ商事會社ト看做ス

第一百五十六條 株式會社ハ七人以上ヲ以テシ且政府  
ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

問 株式會社ノ資格及ヒ他商事會社トノ異ナル点ヲ承リタシ  
答 株式會社ノ資本ハ之レヲ株式ニ分ツモノトス

合名會社ニ在ツテ金錢有價物勞力等ヲ出資トナシ合資會社ハ  
勞力ヲ出資トナス場合ハ例外ニシテ普通金錢有價物ヲ出資ト  
ナス而シテ其出資ハ株式ニ分タサルナリ株式會社ハ之ニ反シ  
金錢ノ外出資トナスヲ得ス且ツ其出資ハ株式ニ分ツモノトス  
尤モ株式會社ニ在テモ有價物即チ土地建物等ヲ出資トナス場  
合アレバ簡ハ之レ價格ヲ評定シ必ス株式ニ分ツモノトセリ  
株式會社ハ有限責任ナルヲ

合名會社ハ必ス無限責任トシ合資會社ハ特約アル場合ノ外總



テ有限責任ナリトス之レニ反シ株式會社ハ取締役ニ付テ特約ヲ許シタルノ外總テ無限責任社員アルコトヲ許サス  
株式會社ハ七人以上ノ株主アルニアラサレハ設立スルコトヲ得ス

合名會社及ヒ合資會社ハ其目的商業ヲ營ムニアラサレハ商事會社トナラサルモ株式會社ニ在ツテハ其目的商業ヲ營ムト否トニ拘ハラズ之レヲ商事會社ト看做ス

合名會社及ヒ合資會社ヲ設立スルニハ別ニ政府ノ免許ヲ受クルヲ要セス之ニ反シ株式會社ヲ設立スルニハ必ス政府ノ免許ヲ受ケサルヘカラサルモノトス

### 第一款 會社ノ發起及ヒ設立

會社ノ發起ト設立トハ同一ナラス發起トハ會社ヲ設立セント

スルノ目論見ニシテ設立トハ其目論見成就シテ有効ニ會社成立シ目的ノ營業ヲ爲スニ至ラシムルコトヲ云フ

第二百五十七條 株式會社ハ四人以上ニ非サレハ之ヲ發起スルコトヲ得ス

發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作り各自之ニ署名捺印ス

定款ハ本法ノ規定ニ牴觸スルコトヲ得ス

問 本條第三項ノ意義ヲ承リタシ

答 本項ハ契約自由ノ權利ヲ制限シタルモノニシテ本法ニ規定スル處ハ定款ヲ以テ之レヲ曲クルコトヲ許サ、ルナリ故ニ其定款ニ於テ定ムヘキハ只其營業ノ目的及ヒ方法其他本款ノ細則

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



ヲ掲クルニ止ルモノトス

第一百五十八條 目論見書ニ記載ス可キ事項左ノ如シ

第壹 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ商號及ヒ營業所

第四 資木ノ總額株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 資本使用ノ概算

第六 發起人ノ氏名住所及ヒ發起人各自ノ引受クル株數

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

問 本條第二項及ヒ第五項ニ掲クル會社ノ目的又ハ資本使用ノ概算トハ如何

答 第二項ノ會社目的トハ會社ノ營マントスル處ノ事業ヲ示シタルモノナリ

第五項ハ第四項ノ資本總額ヲ要スル所以ノ道理ヲ明カニシ以テ其算定ノ適當シタルヤ否ヲ知ラシメンカ爲メ之レヲ記載スルモノナリ

第一百五十九條 發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長

官ヲ經由シテ目論見書及ヒ假定款ヲ主務省ニ差出シ

發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス

問 本條ニ云フ主務者トハ如何

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



答 主務者トハ會社ノ營ムヘキ事業ヲ管轄スル官廳ヲ指スナリ

例ヘハ屠獸營業ヲ目的トスル會社ニ在ツテハ警視廳銀行營業ヲ目的トスル會社ニ在ツテハ大藏省採鑛事業ヲ爲サントスル會社ニ在テハ農商務省即チ此等ノ省廳ヲ主務省ト云フ

發起人ハ此ノ認可ヲ得テ始メテ其目論見書ヲ社會ニ發表シ株主ヲ募集スルコトヲ得而シテ其發表スル公告ニハ何年何月ニ發起ノ認可ヲ得タルヲ且ツ求メニ依リ何人ニモ假定款ヲ見セシムル旨ヲ附記ス可シ

發起人ニ於テ此手續ヲ遵守ゼサルトキハ株式申込ハ其効ナキモノトス(第百六十條參看)

第百六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ目論

見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得其公告中ニ

ハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認

可ノ年月日ト各株式申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル

旨トヲ附記ス

本條ハ前段ニテ了解セシテ別ニ質問ナシ

第百六十一條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受ク

ル株數ヲ株式申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス又其申込ハ署名捺印シタル陳述書ノ送附ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

代人ヲ以テ申込ムトキハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之ニ捺印ス

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



問 株式申込ノ手續及ヒ法式ハ如何

答 株式ヲ申込ントスル者ハ自身創立事務所ニ至リ其引受ケノ株

數ヲ會社ノ株式申込簿ニ記入シ之レニ署名捺印スヘシ

又自身創立事務所ニ出頭スル能ハサルトキハ同シク引受ケノ

株數ヲ記シ之レニ署名捺印シタル書面ヲ送り以テ申込ヲ爲ス

ヲヲ得

又都合ニ依リテハ代人ヲ以テ申込ヲ爲スコトヲ得其代人ハ委

任者即チ本人ノ氏名ヲ肩書シ代理人何某ト記シ之ニ署名捺印

スルヲ要ス

### 第六十二條 株式ノ申込ニ因リテ申込人ハ會社設立

スルニ至レハ定款ニ從ヒ各株式ニ付テノ拂込ヲ爲ス

### 可キ義務ヲ負フ

問 申込タル各株式ニ付テノ拂込義務ハ何時ヨリ生スル歟

答 引受ケタル株式ニ付テノ拂込義務ハ會社設立ノ時ヨリ發生ス

ルモノトス

### 第六十三條 總株式ノ申込アリタル後ハ發起人ハ

創業總會ヲ開ク可シ其總會ニ於テハ少クトモ總申

込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人

ノ承諾ヲ經テ定款ヲ確定ス

問 創業總會トハ如何

答 創業總會トハ會社創業ノ際開クモノニシテ終始一回ニ止マル

總會ナリ

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



問 本條ニ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人ノ承諾ヲ經テ定款ヲ確定スルトアリテ決議ニ依リテ確定スト云ハサリシハ如何

答 申込人ハ此ノ假定款ニ承諾ヲ表シテ株式申込ヲ爲シタルモノナレハ全ク其主旨ニ相反スルカ如キ異議ノアルヘキ筈ナシ只此總會ハ屢キニ承諾ヲ表シタル假定款ヲ確定スルニ過キサレヲ以テ茲ニ承諾ノ語ヲ用ヒタルモノナリ

第六十四條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ議定シ又有價物ノ出資ヲ差入レテ株式ヲ受ク可キ者アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ義定ハ少ナクトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第六十五條 其他創業總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選定ス

問 創業總會ニ於テ議定スヘキ事柄ハ如何

答 創業總會ニ於テ議定スヘキ事柄ハ前條ノ假定款ヲ確定スル事柄ト第六十四條及ヒ第六十五條トニ規定スル事項ナリ左ニ其事柄ヲ述ヘン

- 一 創業ノ爲メ發起人カ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否
- 一 發起人カ創業ノ爲メ取結ヒタル契約及ヒ支拂タル入費等ハ

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



會社之ヲ負擔セサルヘカラス然レモ發起人カ自己ノ利益ヲ謀ラシカ爲メ契約シ又ハ自己ノ爲メ支拂ヒタル入費ナルトキハ會社ノ負擔スヘキ限ニアラサルヲ以テ先ツ總會ニ於テ之レカ有無ヲ検査シ其認否ヲ議定スルモムトス而シテ此總會ニ於テ該契約及ヒ出費ヲ認メスシテ否決セシトキハ發起人自カラ其契約及ヒ出費ヲ負擔セサルヘカラス

二 有價物ヲ出費トシテ差入レタル者アルトキハ其價格ヲ議定ス

有價物即チ土地建物商品器具及ヒ專賣權使用權等ヲ出資トシテ差入レタル者アルトキハ此總會ニ於テ其價格ヲ議定シ之ニ與フ可キ株數ヲ定ムルナリ

右ノ議定ハ株式總○申○込○人○ノ○半○數○ニ○シ○テ○總○株○金○ノ○半○額○以○上○ニ○當

ル申込人出席シ其議決權ノ過半數ニ因リテ之レヲ定ム

三 取締役及ヒ監査役ヲ選定スルコト

問 第六十四條ニ云フ議決權トハ如何

答 議決權ハ一株ヲ以テ一箇ト爲スヲ通例トナスト雖モ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ニ付テハ定款ニテ五株ヲ以テ一箇トナシ又ハ十株ヲ以テ一箇トナスカ如ク必ス其制限ヲ設ケサルヘカラス本條ニ云フ議決權トハ此制限ニヨル議決權ノ過半數ニ依ル可シトノ意ナリ(第二百四條參看)

第六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ免許ヲ請フ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ



第一 目論見書及ヒ定款

第二 株式申込簿

第三 發起ノ認可証

第六十七條 會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ申込人其事務ヲ取締役ニ引渡ス可シ  
取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少ナクトモ四分一ノ金額ヲ會社ニ拂込マシム

問 第六十六條ノ説明ヲ與ラレタシ

答 發起人ハ創業總會ノ終リタルトキハ地方長官ヲ經由シテ第五十九條ニ於テ説明シタル主務省へ會社設立ノ許可ヲ請フ可シ是レ發起人カ最終ノ所爲ニシテ此ノ所爲ヲ了レハ發起事務

ハ全ク結了スルモノトス

發起人カ會社設立ノ免許ヲ請フ願書ニハ左ノ書類ヲ添ル可シ

一 目論見書及ヒ定款

目論見書ハ最初發起認可ヲ請フ際差出セシ目論見書ノ趣意ト同一ナラサル可ラス

又定款モ最初差出セシ假定款ノ趣意ト異同ナキヲ要ス何ントナレハ主務省ハ始メノ假定款及ヒ目論見書等ニヨリ敢テ不都合ナシト見テ發起ノ認可ヲ與ヘシモノナレハナリ然レモ爰ニ云フ定款ノ如キハ假定款ヲ創業總會ニ於テ確定セシモノナレハ其字句ノ修正又ハ條項ノ微細ナル意義ニ變更トアルモ敢テ差支ナカル可シ

二 株式申込簿

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



總株式ノ申込ナキ以上ハ會社設立スルヲ得サルノミナラス亦創業總會ヲモ開クヲ得サルモノトス故ニ總株式ノ申込アリシヤ否ヤヲ調フルハ頗ル必要ナリトス是レ此帳簿ヲ提出セシムル所以ナリ

### 三 發起ノ認可証

發起ノ認可ハ正當ニ得タルモノナルヤ否ヲ検査セン爲メ之レヲ提出セシムルモノナリ

發起人ニ於テ前手續ヲ經テ會社設立ノ許可ヲ得タルト始メテ會社設立スルヲ以テ爾後ノ社務ハ一切取締役ノ掌ル所トナリ從テ發起ノ事務ハ爰ニ於テ全ク終了ス故ニ發起人速ニ其事務ヲ取締役ニ引渡スヘキモノトス

取締役ニ於テ發起人ヨリ其事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第一

着ニ株金ノ拂込ヲ爲サシメ以テ設立ノ登記ヲ爲シ事業ニ着手スルノ準備ヲ爲ス可シ而シテ其拂込シムル株金ハ各株ニ付キ少ナク $\frac{1}{4}$ ノ金額ナルヲ要ス(第六十七條第二項參看)

第六十八條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂込ノ後

十四日內ニ目論見書、定款、株式申込簿及ヒ設立免許書ヲ添ヘテ登記ヲ受ク可シ

登記及ヒ公告ス可キ事項ハ左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ商號及ヒ營業所

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額  
第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第六 取締役ノ氏名住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ  
保存ス

問 前條ノ説明ニハ設立ノ許可ヲ得タルトキハ會社設立スト云ハ  
レタリ其成立ハ第三者ニ對シテモ亦同一ナルヤ

答 前條ノ説明ニ云シ處ノ成立トハ會社ト株主トノ間ノミニ就テ  
云ヒシモノナリ故ニ第三者ニ對シテハ本條ノ登記及ヒ公告ヲ  
爲スニ非サレハ會社成立セシモノト看做サ、ルナリ

第一百六十九條 會社支店ヲ設ケタルトキハ其所在地  
ニ於テ亦登記ヲ受ク可シ

問 支店ノ登記スヘキ事項ハ如何

答 支店ノ登記スヘキ事項ハ前第六十八條ニ規定スル事項ノ外  
尙ホ支店事務所及ヒ開店ノ年月日其取締役ノ住所氏名ヲ登記  
スヘシ而シテ其登記ノ日限ハ合名會社支店登記ノ如ク其日限  
ヲ(第七十八條)規定セサルヲ以テ直チニ登記セサル可ラサルモ  
ノトス

本條ニハ登記ス可シトノミアレモ公告モ併セテナスヘキモノ

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



トス

第七十條 設立ノ免許ヲ得タル後遅クトモ一个年  
内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其免許ハ効力ヲ失フ第  
八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦  
之ヲ適用ス

問 本條ノ意義如何

答 本條ニ云フ十四日内トハ第七十八條ニ規定スル期限ト其起算  
ノ点ニ就キ大井ニ異ナルアリ第七十八條ハ設立後十四日内ナ  
ルモ本條ハ株金四分之一以上ノ拂込アリシ後チ十四日内ニ登記  
ヲ受クヘキモノトセリ然レモ會社設立免許ヲ得タル後一ケ年  
内ニ至ルモ尙ホ登記ヲ受ケサルトキハ早ヤ實施スルノ意ナキ

モノト看做シ該免許ヲ無効トナス故ニ株金四分之一以上ノ拂込  
ハ必ス一ケ年内ニ了ヘ以テ其期限内ニ登記セサル可ラサルナ  
リ

一ケ年内ニ登記ヲ爲サ、ルトキハ會社ハ其免許ヲ無効トセラ  
ル是レ其制裁ナリトス  
又取締役カ其登記ヲ怠リタルトキハ第二百五十六條ノ過料ニ  
處セラる、制裁アリ

第八十一條ノ登記前ニ開業スルヲ得サルコト第八十二條ノ登  
記ヲ受ケタル後尙ホ六ケ月ヲ經テ開業ヲ爲サ、ルトキハ登記  
ノ無効トナル等ノ成規ハ亦株式會社ニモ同シク適用セラる、  
モノトス

第七十一條 登記前ニ在テハ創業總會ノ承認ヲ經

(第二款 會社ノ發起及ヒ設立)



タル義務及ヒ出費ニ付キ發起人取締役及ヒ株主ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負フ

問 未タ會社ノ登記ヲ受ケサル前ニ在テ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ニシテ創業總會ノ承認ヲ得タルモノニ付テ發起人及ヒ取締株主等ガ第三者ニ對スル責任ノ程度ハ如何(第四百六十四條參看)

答 株式會社ノ社員ハ總テ有限責任ナリト雖モ會社設立ノ登記ヲ爲サ、ル前ハ第三者ニ對シテハ未タ會社設立セサルヲ以テ株式會社ノ規定ヲ適用スルヲ得サルモノトス故ニ其登記前ノ義務即チ創業總會ノ承認ヲ經タル義務及ヒ出費ニ就テハ會社ノ爲メ規定シタル有限責任ノ制ヲ適用スルヲ得ズ因テ普通ノ成規ニ從ヒ發起人ハ無限ノ責任ヲ以テ義務ヲ盡サ、ル可ラス又取締役及ヒ株主等モ其代理人タル發起人が爲シタル契約及ヒ

出費ヲ承認セシ上ハ等シク無限ノ責任ヲ負ハサルヲ得サルナリ是レ本條ニ三者連帶シテ無限ノ責任ヲ負フト規定セシ所以ナリ

第七十二條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務及ヒ出費ニ付テハ發起人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任ヲ負フ

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 本條ハ前條ニ掲グル處ノ反對ニシテ發起人が爲シタル契約及ヒ出費ヲ創業總會ニ於テ承認セサル場合ナリ此場合ニ於テハ取締役及ヒ株主ハ連帶無限ノ責任ナシト雖モ發起人等ニ在ツテハ尙ホ連帶無限ノ責任アルモノトス

### 第三款 會社ノ商號及ヒ株主名簿

(第三款 會社ノ商號及ヒ株主名簿)



第一百七十三條 商號ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス  
又商號ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ

問 株式會社ノ商號ハ如何

答 株式會社ハ有限責任ナルヲ以テ決テ社員ノ氏ヲ商號ニ用ユルコトヲ許サス然レモ商號ニハ必ス株式會社ナル四文字ヲ附記ス可シ例ヘハ郵船株式會社又ハ鐵道株式會社ト名稱スルカ如シ

問 本條ノ規定ニ背キタル名稱ヲ附スヘキ者アルハ如何ナル制裁アル歟

答 本法ハ別段其制裁ヲ設ケサルモ登記官吏ハ其登記ヲ拒絕スヘシ從テ登記ヲ受クル能ハス登記ヲ受クル能ハサルトキハ會社成立セス故ニ縱ヒ其制裁ヲ設ケサルモ本條ニ違背スル者ナカ

ル可シ

第一百七十四條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

- 第一 各株主ノ氏名住所
- 第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額
- 第四 各株式ノ取得及ヒ讓渡年月日

問 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之レニ記載ス可キ事項ハ本條ニテ承知セリ其事項中第二ニ株式ノ數及ヒ株券ノ番號トアリ其株式ト株券トハ如何ナル差アル歟

答 株式トハ出資ニ基ク處ノ會社ニ對スル權利ニシテ株券トハ此

(第三款 會社ノ商號及ヒ株主名簿)



權利ヲ表證スル處ノ證券ヲ云フナリ

問 第四ニ掲グル各株式ノ取得トハ如何ナル意義ナル歟

答 取得トハ相續、遺囑、贈與等ニ依リ得タル場合ヲ云フ又讓受トハ有償無償トヲ包含ス

### 第四款 株式

第一百七十五條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等

ニ分チタルモノニシテ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス又

其資本十萬圓以上ナルトキハ五十圓ヲ下ルコトヲ

得ス

問 各株式ノ金額ヲ一定平等ニ分チタルハ如何ナル理由ニ出シモノ歟

答 株式ヲ一定平等ニ分ツハ實際大ナル便益アリトス

一 株式ノ額一定ナルトキハ之レヲ調査シ帳簿記入ヲナスニ煩雜ナラサル便益アリ

二 株主ノ議決權ノ多寡ヲ定ムルノ便益アリ  
尙ホ此他種々ノ便益アラシ

問 各株式ノ最少額即チ二十圓又ハ資本拾萬圓以上ナルトキハ一株五拾圓ト定メタルニ付キ如何ナル便益アル歟

答 株式ノ額ヲ五圓或ハ十圓ト斯ク僅少ノ額ニ定ムルトキハ土方若シクハ車夫等ノ如キ賤民マテ容易ニ株主タルヲ得テ一見甚タ便利ナルモノ、如シト雖モ一利一害ハ世ノ常ニシテ之レカ爲メ生スル弊害ハ其便利ヲ償フニ足ラサルナリ其弊害トハ何ンガヤ他ナシ此等ノ輩ハ無學ニシテ事情ニ通セス爲メニ其

(第四款 株式)



利害ヲ考慮スルノ思慮無キ者多シ故ニ奸商輩ハ之ヲ奇貨トシテ詐術ヲ逞シ彼等カ困苦シテ蓄積セシ處ノ僅々ナル財ヲ詐奪スルノ惡弊是レナリ是レ法律カ茲ニ此ノ制限ヲ設ケ以テ其弊害ヲ防禦スルノ必要ヲ生セシ所以ナリトス

又株式ニ最少額ノ制限ヲ設ケサルトキハ株數及ヒ人員非常ニ多數トナリ實際上甚タ煩雜ヲ極メ且ツ株主ニ無識賤民ノ輩多數ヲ占メ遂ニハ會社ヲ隆盛ナラシムルノ良方案ヲ決議スルヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

第一百七十六條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額發行ノ年月日番號商號社印取締役ノ氏名印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス

本條ハ別段質問ノ点ナシ

第一百七十七條 株式ハ分割又ハ合併スルコトヲ得ス

問 株式ヲ分割又ハ合併スルヲ許サ、ルハ如何

答 分割又ハ合併スルコトヲ許ストセハ數人ニテ一株ヲ所有スルニ至リ遂ニ前條ノ規定ハ有名無實トナルノ結果ヲ來セハナリ我國從來ノ會社ニ在ツテハ株式ヲ合併スルノ慣例アリシカ故商法施行條例第十四條ニ於テ既設株式會社ノ株券ハ併合スルモ強テ之レヲ改ムルヲ要セストセリ然レモ將來設立スル株式會社ハ勿論既設株式會社ト雖モ本法施行以後ニハ併合スルヲ許サ、ルナリ

第一百七十八條 株式全額拂込以前ニ於テハ會社假株

(第四款 株式)



券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株券ヲ發行スルコトヲ得

本條ハ別ニ質問ノ点ナシ

第一百七十九條 假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ發行スルコトヲ得ス

問 登記前ニ假株券及ヒ本株券ヲ發行スルコトヲ得サル理由ハ如何

答 本假ヲ問ハス株券ヲ發行スルニハ會社ノ名義ヲ以テ爲サ、ル可ラス然ルニ登記前ニハ會社未タ成立セサルヲ以テ即チ會社タルノ名義ナキヲ以テ之ヲ發行スル能ハサルモノトス

第一百八十條 株金額少ナクトモ四分之一ノ拂込前ニ爲

シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

問 株券ハ假株券ト本株券トヲ問ハス登記前ニハ發行スルヲ得ズ(第九條)而シテ登記ハ株金四分之一以上ノ拂込ナケレハ之レヲ發行スルコトヲ得ス(第八條)故ニ實際株金四分之一以上ノ拂込ナキ前ニハ株券ヲ發行スルコトナシ然ラハ本條ハ無用ノ法文ニ屬スルモノ、如シ果シテ然ルヤ否説明アリタシ

答 本條ハ登記前ニ株券ヲ發行(本株券ト假株券トハ問ハス)スル場合ヲ云フニ非スシテ株金ノ四分之一ノ拂込ヲ受ケ未タ會社設立ノ登記ヲ受ケサルヲ以テ之ニ其領收証ヲ與ヘタルトキ其領收証モ亦讓渡スコトヲ得スト規定セシモノト解ス可シ

第一百八十一條 株式ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ株券及

(第四款 株式)



ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ會社ニ對シテ其効ナシ

問 會社ニ對シ株式讓渡ノ効アラシニハ如何ナル手續ヲ爲サ、ルヘカヲサレ歟

答 會社ニ對シテハ取得者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ讓渡ノ効ナキモノトセリ是レ會社ガ利益配當金ノ支拂及ヒ株主總會ノ節株主ヲ招集スル爲メ其株主ノ誰ナルヤ及ヒ其所有ノ株數ノ幾許ナルヤヲ知ラシムルノ便ヲ與ヘタルモノトス故ニ讓渡人及ヒ讓受人雙方間ハ勿論第三者ニ對シテハ讓渡ノ承諾ノミヲ以テ有効ノモノトナシ敢テ株券ノ名義書換又ハ株主名簿ニ讓渡ノ旨ヲ記載セサルモ其讓渡ハ宗全有効ナルモノトス

第百八十二條 株金半額拂込前ノ株式ノ讓渡人ハ會社ニ對シテ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ

問 本條ニ云フ未納額ノ擔保義務トハ如何

答 未納額ノ擔保義務トハ例ヘハ一株五十圓ノ株式ナルニ其中既ニ二十圓ヲ拂込タル株式ヲ(半額拂込前)他人ヘ讓渡シタル場合ニ於テ其讓受人ニ於テ殘金ヲ拂込ム能ハサルトキハ其殘額ニ付テハ前讓渡人ニ於テ會社ヘ拂込ノ責任アリ是レ之ヲ未納額ノ擔保義務ト云フナリ

第百八十三條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎ニ一ヶ月ヲ踰エサル期間株券ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

(第四款 株式)



本條ハ別ニ質問スル点ナシ

第百八十四條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ

持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サント求ムル  
コトヲ得ス

問 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ在ッ  
テハ之レヲ取戻スヲ得サルコトハ本條ニ於テ明カナリ然レモ  
本條ニ云フ持分トハ如何ナルモノヲ指ス歟

答 合名會社及ヒ合資會社ニ在ッテハ社員カ會社ニ對スル權利ヲ  
指シテ持分ト云フモ株式會社ニ在リテハ社員カ會社ニ對スル  
權利ハ株式ノ外持分ナルモノナシ故ニ本條ニ云フ持分トハ恐  
ラクハ株式ノ外會社ノ財産ニ對シ株主カ分配ヲ受ク可キ權利

ヲ指スモノナラン例ヘハ會社ノ總株金十萬圓ナルニ設立後營  
業盛大ニ至リ全財産十萬圓ニ増加セシトキ其株金額十萬圓ヲ  
引去リ殘ル五萬圓ニ對シ社員カ分配ヲ受ク可キ權利即チ是レ  
ヲ本條ニ云フ持分ト稱スヘキナリ

第五款 取締役及ヒ監査役

第百八十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカ

ラサル取締役ヲ三ヶ年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其  
時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ  
取締役ハ同役中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專  
務取締役ヲ置クコトヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取  
締役ト同一ナリ

(第五款 取締役及ヒ監査役)



問 本條ノ意義ハ如何

答 本條第一項ノ意義ヲ分拆スレハ左ノ如シ

- 一 株主總會ニアラサレハ取締役ヲ撰定スル能ハサルコト
  - 二 株主ニアラサレハ取締役トナルノ資格ナキコト
  - 三 取締役ハ三人以上ヲ選定スルコト
  - 四 取締役ノ任期ハ三ケ年ナルコト
  - 五 任期滿了ノ後再選スルヲ得ヘキコト
- 本條第二項ハ取締役數名ニ於テ共同シテ事務ヲ取扱フルハ評議ニノミ時間ヲ費シ却テ業務ノ擧カラサルヲ憂ヘ特ニ其中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專務役ヲ置クコトヲ許セリ然レモ其專務取締役ノ責任ニ至ツテハ他取締役ト同一ナリトス

第百八十六條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限ニ付

テハ第百四十三條及ヒ第百四十四條ノ規定ヲ適用ス

(第百四十三條及ヒ第百四十四條問答ノ部ヲ參看スヘシ)

第百八十七條 取締役ニ選マルル爲メ株主ノ所有ス可キ株數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム取締役ノ在任中ハ其株券ニ融通ヲ禁スル印ヲ捺シ之ヲ會社ニ預リ置ク可シ

問 株主ニアラサレハ取締役ニ選定セラル、ヲ得サルコトハ第百八十五條ニ於テ己ニ承知セリ然ラハ其所有スル株ハ一株モテモ可ナルヤ

答 取締役カ所有スル株式ハ其職務上ニ於ケル抵當物ナルヲ以テ

(第五款 取締役及ヒ監査役)



可成的ケ多數ナルヲ要ス尤モ其所有スル株式ノ數ハ會社定款ヲ以テ定ムル處ニ任セ本法ニハ之レヲ定メサルナリ然レモ取締役カ上任ノ際ハ定款ニ定ムル株數ヲ所有スルモ在職中讓渡又ハ抵當等ニ爲スノ自由アルトキハ遂ニ本條ノ効力ヲ失ハシムルノ恐ナキヲ保セス故ニ取締役在職中ハ其所有株券ノ融通ヲ禁スル印ヲ押シ之レヲ會社ノ庫中ニ預リ置クモノトセリ

第百八十八條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スコト

及ヒ定款并ニ會社ノ決議ヲ遵守スルコトニ付キ會社ニ對シテ自己ニ其責任ヲ負フ

問 取締役カ會社ニ對スル責任ハ如何

答 取締役ハ第九十二條ニ掲クル處ノ正整ナル商人ノ自己ノ事務

ニ於テ爲スト同シキ勉勵注意ヲ以テ其職務上ノ責務ヲ盡スコシ(第九十二條問答ノ部ヲ參看)

故ニ取締役ニシテ其責務ニ背キ粗漏怠慢又ハ不正ノ行ヲ爲シ或ハ會社定款及ヒ決議ニ違背シ越權ノ所爲アルトキハ會社ニ對シ其責任ヲ負ハサル可ラズ而シテ之レガ爲メ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ自己ノ全財産ヲ以テ其損害ヲ賠償セサル可ラサル而已ナラス時トシテハ取締役ヲ解任セラル、コトアリ

第百八十九條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各株主ニ

異ナラサル責任ヲ負フ然レトモ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シタル義務ニ付キ取

(第五款 取締役及ヒ監査役)



締役カ連帶無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムル  
コトヲ得其責任ハ退任後一ケ年ノ滿了ニ因リテ消  
滅ス

問 會社ノ義務ニ就テハ取締役ハ如何ナル責任アル歟

答 取締役ハ會社ノ代理人ナルヲ以テ其代理人カ爲シタル所爲ハ  
總テ會社ノ所爲トナリ從テ其所爲ヨリ生スル責任ハ第三者ニ  
對シ會社之レガ責ヲ負ハサル可テス而シテ取締役ハ亦株主ノ  
一人ナルヲ以テ他株主ト同一ナル責任ヲ負フヘキモノトス  
然レモ其責任ニ付テハ會社定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ加重ス  
ルコトヲ得例ヘハ取締役在任中ニ生シタル會社ノ義務ニ付テ  
ハ取締役ハ連帶無限ノ責任ヲ負フ可キコトヲ特定シタル場合

是レナリ

如此取締役ノ責任ヲ加重セント欲セハ會社ノ定款又ハ總會ノ  
決議ヲ以テ前以テ之レヲ特定シ置クヲ要ス決シテ其損害ノ  
生シタルトキ之レヲ定ムルヲ得サルナリ  
取締役ハ連帶無限ノ責任ヲ負フト雖モ退任後一ケ年ヲ經過ス  
ルトキハ其責任ハ消滅スルモノトス

第百九十條 取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記ヲ受ク可  
シ

本條ハ別ニ質問スル点ナシ

第百九十一條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカ  
ラサル監査役ヲ二ケ年内ノ時期ヲ以テ選定ス

(第五款 取締役及ヒ監査役)



但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 本條ハ第八十五條ノ取締役ヲ選任スルコト及ヒ取締役トナルヲ得ヘキ資格ヲ述ヘタルト同一ナリトス今本條ヲ分拆シテ説明セハ左ノ如シ

- 一 監査役ハ株主總會ニアラサレハ選定スルヲ得サルコト
- 二 株主ニアラサレハ監査役トナルノ資格ナキ
- 三 監査役ハ三名以上ヲ選定スル
- 四 監査役ノ任期ハ二ケ年以内ナル
- 五 監査役ハ任期滿了ノ後再選セラル、ヲ得ヘキコト

第九十二條 監査役ノ職分ハ左ノ如シ

第一 取締役ノ業務施行カ法律、命令、定款及ヒ總會ノ決議ニ適合スルヤ否ヤヲ監視シ且總テ其業務施行上ノ過愆及ヒ不整ヲ檢出スルコト

第二 計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ檢査シ此事ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲スコト

第三 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ總會ヲ招集スルコト

問 監査役ノ職分ハ如何

答 監査役ハ會社ノ業務ニ從事スル者ニ非スシテ只取締役ノ業務

(第五款 取締役及ヒ監査役)



ヲ株主ニ代ツテ監視スルニ止ル其業務左ノ如シ

- 一 監査役ハ取締役ノ業務施行カ法律、命令、定款又ハ總會ノ決議ニ違背セサルヤ否ヲ監視シ又業務施行上ニ過失ナキヤ否事務不整備ナラサルヤ否ヲ見出スモノナリ
- 二 計算ヲ檢査スルコト即チ通常總會ニ呈出スル處ノ計算書財產目錄貸借對照表事業報告書利息又ハ配當ノ分配案ヲ檢査シ之レヲ株主總會ニ報告スルコト
- 三 臨時總會ヲ開クヘキ重大ノ件アルキハ取締役ニ於テ臨時總會ヲ招集スルヲ通例トス然レモ取締役ノミニ之レヲ一任シ置グトキハ亦時機ヲ失スルノ恐レナキヲ保セス殊ニ取締役ヲ解任スルノ臨時總會ニ在ツテハ監査役ニアラサレハ之ヲ招集スルモノナシ是レ監査役ニモ此集招權ヲ與ヘシモノトス

ス

爰ニ注意ス可キハ監査役ハ假令ヒ取締役カ業務施行上不正ノ所爲アルコト又ハ過失アルコトヲ發見スルモ已ニ躬カラ取締役ヲ處分スルノ權ナシ只タ其監視又ハ檢査セシ結果ヲ總會ニ報告スルニ止ルモノトス

### 第百九十三條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ業務ノ實

況ヲ尋問シ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展閱シ會社ノ金匣及ヒ其全財産ノ現況ヲ檢査スル權利アリ

問 監査役カ取締役ノ業務施行ヲ監視シ檢査スルニ付キ如何ナル權利ヲ有スルヤ

答 其權利ハ本條規定スル處是レナリ請フ左ニ之レヲ述ヘン  
(第五款 取締役及ヒ監査役)



- 一 會社ノ業務實行ヲ尋問シ得ルコト
  - 二 會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ檢閲シ得ルコト
  - 三 會社ノ金匣及ヒ其財産ノ現況ヲ檢査スルヲ得ルコト
- 右三箇ノ權利ハ何時ニテモ之レヲ行フコトヲ得ルナリ

第九十四條 監査中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會ニ提出ス

問 監査役中ニ於テ各其意見ヲ異ニセシ場合ハ如何ニ之レヲ處置スルヲ得ルヤ

答 監査役ノ職務ハ其監視ノ結果及ヒ檢査ニヨリ發見シタル頗末ヲ株主總會ニ報告スルニ止ルヲ以テ各自其意見ヲ異ニスルトキハ多數ヲ以テ其意見ヲ一定スルナリ各其意見ヲ總會ニ提出シ以テ總會ノ判斷ニ任スヘキモノトス凡ソ多數ヲ以テ事ヲ決

スルモノハ實ニ不得止場合ニ用ユヘキ非常ノ方法ナリ故ニ監査役ノ意見ノ如キ實地之レヲ施行スルモノニ非ス只總會ニ呈シ其決議ノ材料ト爲スニ過キサレモノハ宜シク多數決ノ方法ヲ避クヘキナリ況ンヤ實際上多數決ヲ以テ其意見ヲ一定スルノ必要ナキニ於テオヤ

第九十五條 監査役ハ第九十二條ニ掲ケタル責務ヲ缺キタルニ因リテ會社又ハ其債權者ニ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ

問 監査役カ第九十二條ニ掲クル職務ノ責任ヲ欠キタルニ依リ會社又ハ會社ノ權利者ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ之レヲ賠償スルノ責任アルコトハ本條ニ於テ承知セリ然レモ其第九十

(第五款 取締役及ヒ監査役)



二條ノ責務ヲ缺キタルハ故意ニアラスシテ過失ニ出テタルト  
キハ如何ニ決スヘキヤ

答

監査役カ責務ヲ缺キタルハ故意ニ出スルト過失ニ出スルトチ  
問ハス之レカ爲メ會社又ハ其權利者へ損害ヲ蒙ラシメタルト  
キハ總テ之レヲ賠償スルノ責任アリ而シテ其責任ハ無限ナル  
ヲ以テ已レガ全財産ヲ擧ケテ其辨償ニ充テサルヘカラサルナ  
リ

問

其責任ノ無限ナルトハ前問コ於テ承知セリ然レモ其責任ハ連  
帶ナルカ將タ分担ナルカ聊カ疑ナキヲ得ス請フ之レカ説明チ  
與ヘラレタシ

答

監査役ノ責任ハ連帶ナリト云ヒ又ハ分擔ナリト云ヒ學者間議  
論一定セサルモノ、如シ然レモ一概ニ之レヲ連帶ナリ分擔ナ

リト論スルハ正船ヲ得タル論ニアルス余ハ時トシテハ連帶ト  
ナリ又ハ分擔トナルモノト論定スルニ躊躇セサルナリ今其連  
帶責任トナル場合ト分擔責任トナル場合トヲ分テ述ントス

(イ) 連帶責任トナル場合

一 監査役カ其責務ヲ缺キタルハ總体ノ過失又ハ故意ニ出テタ  
ルトキ又ハ連帶シテ責任ヲ負フ可キ特約アルトキハ連帶責  
任トナルナリ

(ロ) 分擔責任トナル場合

一 連帶ノ特約ナリ又一人一己ノ過失又ハ故意ニ出テタルモハ  
分擔責任トナルヘシ

左ノ如ク連帶ナルヤ將タ分擔ナルヤハ其場合ニ從テ論定スヘ  
キモノニシテ一概ニ之レヲ連帶ナリ又ハ分擔ナリト極論スル

(第五款 取締役及ヒ監査役)



ハ其當ヲ得タルモノニアラサルナリ

第九十六條 取締役又ハ監查役カ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受ク可キトキハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

問 監查役カ受クヘキ報酬ハ如何

答 監查役カ受クヘキ報酬ニ二種アリ一ヲ給料トシ一ヲ賞與金又ハ慰勞金トス(本條ニ其他ノ報酬之レヲ與ヘ又ハ其額ヲ定ムルハ取締役ニアラスシテ會社ノ定款又ハ總會ノ決議ニ依ツテ定マルモノトス)

第九十七條 取締役又ハ監查役ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得其解任セラレ

タル者ハ會社ニ對シテ解任後ノ給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得ス

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 本條ハ取締役監查役ヲ普通主人ト代理人トニ於ケル如ク其任期ノ如何ニ拘ハラス總會ノ決議ニヨリ隨意ニ解任スルヲ得ヘキモノトセリ是レ取締役監查役ハ其職權ノ重大ナルヲ以テ時ニ或ハ專横ノ處置ヲナシ會社ニ如何ナル害ヲ蒙ラシムルヤモ計リ難シ故ニ會社ニ此ノ隨意解任ノ權ヲ附與シ其害ヲ避クルノ手段ヲ得セシメタリ

右ノ如ク總會ノ決議ニ因リ任期中解任セラレタル者ハ

第一 解任後ノ給料ヲ求ムルノ權ナシ

第二 其他ノ報酬出テ解任後ノ賞與金又ハ慰勞金ヲ求ルノ權ナ

(第五款 取締役及ヒ監查役)



第三 償金ヲ求ムルノ權ナシ

取締役及ヒ監査役ヲ民法財産取得篇第十二章ニ掲クル處ノ  
雇傭人ト看做ストキハ或ハ償金ヲ求ムル場合アリト雖モ之  
レヲ普通ノ代理人ト看做ストキハ此權ナシ凡ソ代理法ノ原  
則トシテ任期ノ如何ニ拘ハラズ委任者代理人共ニ隨意解任  
ヲ求ムルヲ得テ敢テ其償金ヲ求ムルノ權ナキモノトス本法  
ハ即チ取締役及ヒ監査役ヲ普通代理人ト看做シ代理法ノ原  
則ヲ適用セシモノトス

第六款 株主總會

第二百九十八條 總會ハ取締役、監査役又ハ其他本法ニ依

リテ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

問 總會ヲ招集スルノ權アル者ハ何人ナルヤ

答 總會ニ二種アリ一ヲ通常總會ト云ヒ二ヲ臨時總會ト云フ而シ  
テ之レヲ招集スル權アルモノ左ノ如シ

(イ) 通常總會ヲ招集スルヲ得ヘキ者

一 取締役

(ロ) 臨時總會ヲ招集スルヲ得ヘキ者

一 取締役及ヒ監査役

二 清算人及セ破産管財人

株主ノ或ル部分ノ結合スルトキハ臨時總會ヲ招集スルヲ得ヘ  
キモノ、如シト雖モ個ハ之レ臨時總會ヲ招集スルニアラスシ  
テ臨時總會ノ招集ヲ取締役ニ請求スルニ過キサレハ之レヲ目

(第六款 株主總會)



シテ直チニ臨時總會ヲ招集スル者ト同一視スル勿レ

第百九十九條 總會ノ招集ハ會日ヨリ少ナクトモ十四

日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ且定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 總會ノ招集ハ開日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通知スルモノトス而シテ其通知ト共ニ會議ノ目的及ヒ會議ニ附スル事項ヲ記シタル書面ヲ添ヘルヘシ是レ株主ニ開日繰合モ出席スルノ用意ヲナサシメ且ツ其目的及ヒ會議ニ附スル事項ヲ調査シ以テ其利害得失ヲ考慮スルノ餘地ヲ與ヘタルモノナリ

其通知ノ方法ハ豫シメ定款ヲ以テ定メ置キタル方法ニヨリ或ハ株主ヘ各別ニ招集狀ヲ發シ或ハ新聞紙ヲ以テ廣告スヘキモノトス

右述フル處ハ通常總會臨時總會ニ適用スヘキモノナルモ亦創業總會ニモ適用セラル、モノトス

問 若シ本條ノ規定ニ違背シ十四日以内ノ期日ヲ以テ招集ヲ爲シタルトキハ如何

答 場合ニハ株主ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百條 通常總會ハ每年少ナクトモ一回定款ニ定

メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於テハ前事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又



ハ配當金ノ分配案ヲ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス  
取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報告書ハ  
其書類ト共ニ之ヲ提出ス

問 本條第一項ニ列記スル計算書以下數種ノ書類ハ取締役ヨリ直  
チニ總會ニ提出スルモノナル歟

答 取締役ハ直チニ總會ニ提出スルヲ得ス先ツ此等ノ書類ヲ監査  
役ニ回附シ其監査ヲ受ケタル后チ之ヲ總會ニ提出シ其決議ヲ  
求ムヘキモノトス面シテ監査役カ其監査ヲ遂ケタル結果ノ報  
告書ハ取締役カ提出スル右數種ノ書類ト共ニ之ヲ總會ニ提出  
スヘキモノトス

## 第二百一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何

時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得又總株金ノ少ナク  
トモ五分一二當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申  
立ツルトキハ亦臨時總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

問 臨時總會ハ如何ナル場合ニ之レヲ開會スルヲ得ルヤ

答 臨時總會ハ新規ニ或ル事業ヲ起サントスル歟又ハ従前ノ事業  
ヲ廢止セントスル歟若シハ其幾分ヲ變更セントスル歟又ハ取  
締役監査役ニ不正ノ所爲アリト看認メ之レヲ解任セントスル  
カ如キ重大ナル臨時ノ必要ニ應シ開會スルヲ得ルナリ故ニ通  
常總會ノ如キ一定ノ時期ナク何時ニテモ其必要ノ生シタルト  
キ之レヲ招集スルヲ得ヘキモノトス

問 何人カ臨時總會ヲ招集スルヲ得ヘキ歟

(第六款 株主總會)



答 臨時總會ヲ招集シ得ヘキ者ハ第百九十八條問答ノ部ニ於テ既ニ述ヘタル如ク取締役監査役清算人破産管財人等はレナリ株主ニ於テ臨時總會ノ必要ヲ看認ムルトキハ總株金四分一以上ニ當ル株主ノ同意ヲ得テ臨時總會ノ必要ヲ述ヘ取締役監査役若クハ清算人破産管財人等ヘ對シ招集ヲ請求スルコトヲ得而シテ其請求ヲ受ケタル者ハ仮令ヒ之ヲ不當ナリト看認ムルモ之レヲ拒ムノ權ナク必ス其請求ニ應シテ招集セサルヲ得サルノ義務アリトス

右ノ如ク株主カ臨時總會ノ招集ヲ求ムルニハ其人員ニ制限ヲ設ケスシテ其株金ニ制限ヲ置キタルヲ以テ總株金ノ四分一ニ當ルトキハ一人ニテモ之レヲ請求スルヲ得ヘキモノトス

## 第二百二條 總會ハ本法ニ於テ別段ノ規定アルトキ

ノ外定款ノ定ニ從ヒテノミ決議ヲ爲スコトヲ得定款ニ其定ナキトキハ總株金ノ少ナクトモ四分一ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半数ニ依リテ決議ヲ爲ス

問 本條ノ意義ヲ承リタシ

答 本條ハ通常臨時總會ノ決議權及ヒ其方法ヲ定メタリ

決議ノ方法即チ總會ニ出席スヘキ株式ノ數及ヒ人員ノ數等ハ豫シメ會社定款ニ於テ定メタルヲ通例トス然レモ若シ之レカ定メナキトキハ左ノ方法ニ依リテ決議スルヲ得ルナリ

- 一 總株金ノ四分一ニ當ル株主ノ出席アルコト
- 二 其出席員ノ議決權ノ過半数ノ同意アルコト(本條末文參看)

(第六款 株主總會)



議決權ノ事ハ第二百四條ニ規定アリ就テ見ルヘシ

第二百三條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テノ決

議ヲ爲スニハ第六十四條ニ定メタル決議ノ方法

ニ依ル

第一百五十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

問 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テノ決議方法ハ如何

答 定款ノ變更及ヒ任意ニテ會社ヲ解散スルニ付テノ決議方法ハ

左ノ如シ

一 少ナクトモ總株主ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル株

主出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ之レヲ爲ス(第六十四

條第二項參看)

二 第一項ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ株主出席セザルトキ

ハ其總會ニ於テ假ニ決議ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ會

日ヨリ少ナクモ十四日前ニ(第九十條參看)其決議ヲ總株主ニ通

知シテ再ヒ總會ヲ招集ス而シテ其通知ニハ若シ第二ノ總會

ニ於テ出席株主ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ議決ヲ認可シタ

ルトキハ之ヲ有効ト爲スヘキ旨ヲ明告スルコトヲ要ス(第五十

條參看)

爰ニ注意スヘキハ第一百五十二條ハ特リ定款ノ變更及ヒ任意ノ

解散ニ付テノ總會ニノミ適用セラル、モノ、如シト雖モ決シ

テ然ラス第一百五十二條ハ株式會社ノ他ノ總會ニモ亦適用セラ

ル、モノトス

第二百四條 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タルヲ通

(第六款 株主總會)



例トス然トモ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ  
定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルコトヲ得

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タルヲ通例トス是レ株主ハ其所  
有ノ株數ノ多寡ニ從テ會社ニ對スル利害ノ關係ニ厚薄アルヲ  
以テナリ即チ多數ノ株式ヲ所有スル者ハ多數ノ議決權ヲ有シ  
少數ノ株式ヲ有スル者ハ之レニ應シタル少數ノ議決權ヲ有ス  
ルノミ然レモ此定則ヲ無限ニ實行スルトキハ二三株主ノ爲メ  
ニ會社ヲ左右セラル、ノ結果ヲ生スルヲ以テ本條ハ之レヲ憂  
ヘ十一株以上ヲ所有スル株主ノ議決權ニ付テハ相當ノ制限ヲ  
設クヘキモノトセリ然レモ其制限ハ本法ヲ以テ定メス之ヲ會  
社ノ定款ニ一任セリ

第七款 定款ノ變更

第二百五條 會社ハ定款ニ定アルトキ又ハ總會ノ決  
權ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ得然レトモ法律  
ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ違背ス  
ルコトヲ得ス

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 定款ハ本ト株主ノ承諾ニ因ツテ成立セシモノナルヲ以テ亦株  
主ノ承諾有ルトキハ別ニ主務省ノ<sup>〇</sup>免<sup>〇</sup>許<sup>〇</sup>ヲ受<sup>〇</sup>ケ<sup>〇</sup>スモ自由ニ之ヲ  
變更スルコトヲ得ルナリ然レモ左ノ場合ニ於テハ縱令株主ノ  
承諾有ルモ隨意ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス

一 法律ニ違背スル變更ナルコト

(第七款 定款ノ變更)



二 政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ違背スル變更ナルコト  
 免許ニ附シタル條件トハ主務省ニ於テ會社設立ノ免許ヲ與  
 フルトキ附シタル條件ニシテ例ヘハ會社資本ヲ増減スルト  
 キハ新タニ認可ヲ受クヘキヲ又ハ營業所ヲ移轉スルトキハ  
 又其事由ヲ具申シテ新タニ願出ツ可シトノ條件ヲ附シタル  
 カ如キ場合はレナリ

問 定款ハ如何ナル方法ニ依リテ變更シ得ルヤ

答 定款ヲ變更スル方法ニ二様アリ左ノ如シ

一 定款ニ豫定シアルトキ

定款ニ豫定シアルトキトハ例ヘハ會社設立後幾年ヲ經タル  
 トキ又ハ事業ノ或ル程度ニ運ヒシトキハ資本ヲ増加シ若ク  
 ハ減少セントノ定メアルトキ又神戸港迄ノ海送事業ヲ爲ス

會社ナルトキ東海道鐵道ノ全通スルトキハ神戸港ノ航海ヲ  
 止メ更ニ函館航海ヲ爲サントスル旨ノ豫定アル場合等是レ  
 ナリ

二 總會ノ決議ニ依リテ變更スルコト

第二百六條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又  
 ハ新株券若クハ債權ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少  
 ハ株券ノ金額又ハ株數ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得  
 但資本ハ其全額ノ四分一未滿ニ減スルコトヲ得ス  
 此債權ハ記名ノモノニシテ其金額ニ付テハ第七  
 十五條ノ規定ヲ適用ス

問 會社ノ資本ヲ増減スル方法ヲ承リタシ

(第七款 定款ノ變更)



答 資本ノ増減モ亦定款變更ノ一ナリトス而シテ其資本ノ増加ヲナス方法ニハ三種アリ左ニ之ヲ述ヘン

一 株券ノ金額ヲ増加スルコト

株券ノ金額ヲ増加スルトハ例ヘハ一株二十圓又ハ五十圓ナリシ株券ヲ更ニ五十圓若クハ百圓ト爲スカ如シ總會ニ於テ此増加ノ決議ヲ爲ストキハ從來ノ株主ハ此増加額ヲ會社ニ對シ拂込ムヘキノ義務ヲ負フモノトス

二 新株券ヲ發行スルコト

新株券ヲ發行スルトハ從來ノ株券ノ外ニ更ニ若干ノ株券ヲ發行スルヲ云フ例ヘハ從來五十圓ノ株券千株ナリシニ新タニ五十圓ノ株券五百株ヲ發行スルカ如シ而シテ此新株券ハ從來ノ株主ニ於テ負擔スルトモ又ハ廣ク公衆ヨリ募集スル

トモ一ニ總會ノ決議如何ニ依ツテ定マルモノトス  
本項ノ新株券ヲ發行スルニ付テモ第七十五條ニ規定シタル最少額ノ制限ハ之ヲ遵守セサル可ラサルナリ

二 債券ヲ發行スルコト

債務トハ所謂會社ノ借用証券コシテ公債証券ト殆ント同一ノモノニシテ流通シ得ヘキ信用証券ナリ故ニ他ノ流通証券ノ如ク抵當又ハ賣買ヲ爲ス甚タ容易ナルモノトス殊ニ株式取引所ニ於テ賣買ヲ爲スヲ得此等ノ點ヨリ視ルトキハ亦株券トモ同一ナルモノ、如シト雖モ其間大ナル差異アリ其差異ノ重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 債券所持人ハ會社ニ對スル債權者ニシテ株券所持人ハ會社ノ株主ナリ故ニ債權者ハ株主ニ付テ本法ニ規定シタル權利ヲ

(第七款 定款ノ變更)



有セス從テ義務モ負担セサルモノトス

(ロ) 債權者が受クル利益ハ利息ニシテ一定不動ノモノナリト雖  
 凡株主カ受クル利益ハ純益ノ分配ナルヲ以テ會社ノ盛衰ニ因  
 ツテ増減アルモノトス

(ハ) 債權ニ付テハ豫シメ一定ノ償却方法ヲ定メ置キ漸次之ヲ償  
 却スヘキモ株金ハ會社ノ解散スルニアラサレハ償却セス又解  
 散ノ場合ニ於テモ總テノ債權ヲ償却シタル後ニアラサレハ株  
 金ノ償却ヲ爲スヲ得サルナリ

爰ニ注意スヘキ點アリ本項ノ債券ヲ發行スルニ就テモ亦第七  
 十五條ノ最少額ノ制限ハ之ヲ遵守セサルヘカラサルモノトス  
 要スルニ會社カ資本ヲ増加スルニハ右三個ノ方法中其孰レヲ採  
 ルモ固ヨリ隨意ナリトス

○資本ヲ減少スル方法ニモ左ノ二種アリ

一 株券ノ金額ヲ減少スルコト

例ヘハ從來ノ株券三十圓若クハ七十圓ナルトキ更ニ之レヲ二  
 十圓若クハ五十圓ト爲スカ如キ是レナリ  
 然レモ之カ爲メ第七十五條ノ最少額ノ制限即チ二十圓又ハ  
 五十圓以内ニ減少スルヲ得サルナリ

二 株數ヲ減シテ減少スルコト

例ヘハ從來ノ株數千株ナルヲ更ニ五百株ニ減少スル場合はレ  
 ナリ而シテ其減少ノ方法ハ株主ノ決議ニ因ツテ定マルモノト  
 ス

然レモ其減少スヘキ底度ハ資本金額ノ四分一マテコシテ此以  
 内ニ減スルコトヲ許サ、ルナリ

(第七款 定款ノ變更)



會社資本ヲ減少スルニ付テハ右二個ノ中其孰レヲ探ルモ隨意ナ  
リトス

第二百七條 會社資本ヲ減セントスルトキハ會社ハ

其減少ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且異議アル者  
ハ三十日內ニ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百八條 前條ニ掲ケタル期間ニ異議ノ申出ア  
ラサルトキハ異議ナキモノト看做ス

異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ辨償シ  
又ハ之ニ擔保ヲ供シテ異議ヲ取除キタル後ニ非サ  
レハ資本ヲ減少スルコトヲ得ス

問 資本ヲ減少セントスルトキハ債權者へ對シ如何ナル手續キヲ  
爲サル可ラサル歟

答 株式會社ハ合名會社ノ如ク無限責任ニアラサルヲ以テ其資本  
ヲ減少スルハ債權者ニ取ツテ甚ダ不利益ナルモノトス故ニ會  
社ニ於テ資本ヲ減少セントスルトキハ其旨ヲ各債主へ通知シ  
且ツ異議アルモノハ三十日內ニ其旨ヲ申出ツ可キヲ催告ス  
ルコトヲ要ス面シテ三十日內ニ異議ノ申出ナキ者ニ對シテハ  
固ヨリ異議ナキモノト看做シ處分シテ可ナリ然レモ期限中異  
議ノ申出アル者ニ對シテハ其者ニ對スル負債ヲ償却スル歟若  
クハ相當ノ抵當ヲ差入ル、カ又ハ保証ヲ立テ其異議ヲ取除キ  
タル後ニアラサレハ減少スルヲ得サルナリ  
爰ニ注意ス可キハ債權者へノ通知ハ最モ確實ナル方法ニ依リ

(第七款 定款ノ變更)



テ通知スルヲ要ス例ヘハ使者ヲ立テ其通知ノ受取ヲ取置ク  
カ或ハ書留郵便ヲ以テ爲スヘシ否ラサレハ後日其通知ノ有無  
ニ付キ訴訟ノ生スルモ難計是レ大ニ慎ムヘキ点ナリトス

第二百九條 資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ受ケタ

ル株主ハ過愆ナキ不知ノ爲メ其減少ニ付キ異議ヲ  
申出テサル債權者ニ對シテ登記ノ日ヨリ二個年間  
其受ケタル拂戻ノ額ニ至ルマテ自己ニ責任ヲ負フ

問 本條ノ意義如何

答 前條ニハ第二百七條ノ規定ニ從ヒ通知ヲ爲シ其期日内ニ異議  
ノ申出ヲ爲サ、ル者ニ付テハ異議ナキモノト看做ス旨ヲ述ベ  
タリ然レモ個ハ之レ通知ヲ知リテ尙ホ異議ノ申出ヲ爲サザル

者又其知ラサルハ自己ノ過失ニ原由スルモノニ適用スヘキモ  
ノニシテ本條規定スル如ク己レノ過愆即チ過失ニ非ズ其知ラ  
サルハ全ク實際上止ムヲ得サル場合ニ出テ、其申出ヲ爲ス能  
ハサリシ者ニ對シ之ヲ適用スルヲ得サルナリ故ニ此等ノ債權  
者ニ對シテハ其拂戻ヲ受ケタル株主ハ猶ホ登記(減少ノ登記ナ  
リ)ノ日ヨリ起算シニケ年間責任ヲ負ハサルヲ得サルモノトス  
然レモ債權者ハ此權利ヲ拂戻ヲ受ケタル株主ニ對シ直接ニ行  
フヲ得ス先ツ會社ニ對シ第二百八條第二項ノ要求ヲ爲シ會  
社其責任ヲ盡ス能ハサルトキ始メテ此株主ニ對シ要求スルヲ  
得ルモノトス

第二百十條 會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項  
ヲ變更シタルトキハ直チニ其變更ノ登記ヲ受ク可

(第七款 定款ノ變更)



シ登記前ニ在テハ其變更ノ効ヲ生セス  
營業所ヲ移轉スルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登  
記ヲ受ケ新所在地ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付  
キ要スル諸件ノ登記ヲ受ク可シ又同一ノ地域内ニ  
於テ移轉スルトキハ移轉ノミノ登記ヲ受ク可シ

問 本條ノ説明ヲ承リタシ

答 本條第一項ハ既ニ登記シタル事項ヲ變更スルトキハ直チニ其  
變更ノ登記ヲ受クヘキコトヲ規定セリ

此變更ノ登記ヲ爲サ、ル前ニ在ツテハ假令ヒ第三者ニ於テ其  
變更ノ事實ヲ知り居ルモ尙ホ其効ナキモノトス  
會社ノ營業所ヲ移轉スルトキハ二ヶノ登記ヲ受ケサルヘカラ

ス即チ舊所在地ニ於テハ移轉シタル旨ノ登記ヲ受ケ又新所在  
地ニ於テハ第六十八條ニ掲クル諸件ノ登記ヲ受クヘシ然レ  
モ同一ノ地域内ニ於テ移轉スルトキハ同一ノ登記所ナルヲ以  
テ何區何町何番地へ移轉シタル者ノ登記ヲ受クルヲ以テ足レ  
リトス

茲ニ云フ同一ノ地域内トハ第廿六條ニ掲クル一地域内ト同一  
ニ解シテ可ナリ

### 第二百十一條 會社定款ノ變更ノ登記ヲ受ケタルト

キハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ其變更ヲ届出ツ  
ルコトヲ要ス

本條ハ別ニ質問スル點ナシ

(第七款 定款ノ變更)



## 第八款 株金ノ拂込

第二百十二條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通知スルコトヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲ササル爲メ株主ノ被フル可キ損失ヲ併示ス

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 株主ハ其申込ミタル株式ノ金額ヲ拂込ムヘキ義務ヲ負フ且其拂込ニ付テハ定款ニ從フ可キコト等ハ第六十二條ノ規定スル所ナリ而シテ其株式ノ拂込期節及方法ハ定款ニ於テ定ムヘキコトヲ本條ニ於テ規定セリ是レ兩條相待テ其効用ヲ爲スモ

ノナリ故ニ定款ニ於テ定メタル拂込期節ノ來ル時ハ株主ハ必ス株金ノ拂込ヲ爲サ、ル可ラス若シ遅延スルトキハ其遅延ヨリ生スル損失ハ之ヲ負擔セサルヘカラス然レモ或ハ多用ニ紛レ其期節ヲ忘却シ知ラス識ラス損失ヲ招クノ株主ナキヲ保セサルヲ以テ本條ハ其拂込期節ノ十四日前ニ各株主ニ對シ拂込ヲ爲スヘキコトヲ催告シ若シ其期日拂込ヲ爲サ、ルトキハ之カ爲メ被ムルヘキ損失ヲ併セテ通知スヘキコトヲ規定シタリ爰ニ云フ損失トハ即チ第二百十三條ノ義務ヲ生スルコトヲ云フナリ

第二百十三條 拂込期節ヲ怠リタル株主ハ年百分ノ七ノ遅延利息及ヒ其遅延ノ爲メニ生シタル費用ヲ



### 支拂フ義務アリ

問 本條ニ掲クル拂込ヲ怠リタルトハ如何

答 拂込ヲ怠リタルトハ其期日迄ニ拂込ヲ爲サ、ル場合ヲ云フ此場合ニ於テハ其期日ノ翌日ヨリ拂込ミタル日迄ノ日數ヲ積算シ年百分ノ七ノ利息ヲ會社ニ對シ支拂ハサルヲ得サルモノトス

問 遅延ノ爲メニ生シタル費用トハ如何

答 遅延ノ爲メ生シタル費用トハ再度又ハ再三ノ催告ヲ爲シタル使者ノ賃錢又ハ郵便料等ヲ云フナリ

### 第二百十四條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少ナクト

モ十四日ノ期間ニ於テ拂込ム可キ催告ヲ會社ヨリ

受ケ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ其株主ニ對シテ株券ノ所有權ヲ失ヒタリト宣言スルコトヲ得然ルトキハ其株券ハ會社ノ所有ト爲ル

### 第二百十五條 所有權ヲ失ヒタリト宣言セラレタル

株券ノ從前ノ所有者ハ會社ニ於テ其株券ヲ公賣スルモ其代金既ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第二百十三條ニ記載シタル利息并ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但剩餘アルトキハ會社ハ之ヲ從前ノ所有者ニ還附ス會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フ可キコトヲ

(第八款 株金ノ拂込)



定ムルコトヲ得

問 十四日以上ノ期間ヲ定メ再度拂込ノ催告ヲナシタルニモ拘ハ  
ラス猶ホ拂込ヲ爲サ、ル株主アルトキハ其株主ニ對シ會社ハ  
如何ニ處分シ得ルヤ

答 拂込ヲ遅延シタル株主アルトキハ會社ハ更ニ十四日以上ノ期  
間ヲ定メ再度催告ノ通知ヲナシ猶ホ其拂込ヲ爲サ、ルキハ其  
制裁トシテ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 會社其株主ニ對シテ株券ノ所有權ヲ失ヒタリト宣言スル  
株主ニシテ此宣言ヲ受クルトキハ株券ノ所有權并ニ株主タル  
ノ資格ヲ失フ又會テ拂込ミタル金額ヲ取戻スコトヲ得サルナリ
- 二 加之會社ニ於テ其株券ヲ公賣ニ付シタルモ尙ホ其代金既ニ  
催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第

百十三條ニ記載シタル利息及ヒ催告又ハ公賣ノ費用等モ併  
セテ支拂ハサルヲ得サルナリ  
然レモ公賣金ニテ此等ノ費用ニ至ル迄引去リ尙ホ剩餘ノ金  
額アルトキハ會社ハ宣言セラレタル從來ノ所有者ニ之ヲ還  
付スヘシ

- 三 會社ハ右制裁ノ外尙ホ定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フヘキコ  
トヲ定メ置クコトヲ得ルナリ

### 第九款 會社ノ義務

第二百十六條 會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ

拂戻スコトヲ得ス

若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債務者

(第九款 會社ノ義務)



## 直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

問 株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スコトヲ得サル理由ハ如何

答 株式會社ハ有限責任ニシテ其責任ハ單ニ資本額ニ止ルモノナ

ルヲ以テ妄リニ之ヲ減少スルコトヲ許サス若シ自由ニ減少スル

ヲ許ストセハ其拂戻ヲ受ケタル一二株主ニ取ツテハ至幸ナル

モ他ノ株主又ハ會社ノ債權者ニ取ツテハ其抵當ノ幾分ヲ減少

シタルト同一ニシテ甚タ不利益ナルモノトス是レ會社ノ資本

ナル株金ハ假令一分タリトモ之ヲ拂戻スコトヲ許サ、ル所以

ナリ

然レモ會社解散ノ場合及ヒ第二百六條ノ場合ハ此限りニ非ス

問 若シ取締役ニ於テ本條ノ規定ニ違背シ株金ノ全部又ハ一分ヲ

或ル株主ニ拂戻シタルキハ如何ナル制裁ヲ受クル歟

答 其制裁ハ第二百五十八條ノ規定スル處ニシテ二十圓以上二百

圓以下ノ過料ニ處セラル、モノトス

問 其拂戻ヲ受ケタル株主ハ如何ナル制裁ヲ受クル歟

答 其拂戻ヲ受ケタル株主ハ取締役ノ如ク別ニ過料ニ處セラル、

カ如キ制裁ナシト雖モ其拂戻ヲ受ケタル株金ニ付テハ會社又

ハ債權者ヨリ取戻シノ請求ヲ受クルモノトス

問 本條ニ直接ニ取戻サント求ムルコトヲ得ト規定セシハ如何

答 會社ヨリ株主ニ對シ取戻ヲ求ムルトキハ直接ナルヲ以テ故サ

ラ茲ニ直接ナル語ヲ用ユルノ必要ナシト雖モ會社ノ債權者ヨ

リ株主ニ對シ請求スルハ間接ナルヲ以テ債權者ハ先ツ會社ニ

對シ請求シ會社ハ亦株主ニ對シ取戻ヲ求ムルヲ順序トス故ニ

本法ハ此煩雜ナル手數ヲ除カン爲メ債權者ヨリモ直ニ株主



ニ取戻ヲ求ムルヲ許シタリ是レ本條ニ直接ナル語ヲ加ヘタル所以ナリトス

第二百十七條 會社ハ自己ノ株券ヲ取得シ又ハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス所有權ヲ失ヒタリト宣言セラレタル株券又ハ債務ノ辨償ノ爲メ若クハ其他ノ事由ニ因リテ會社ニ交付セラレ若クハ移属シタル株券ハ一ヶ月内ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金ヲ會社ニ收ム

問 會社カ自カラ發行シタル株券ヲ所有シ又ハ質ニ取ルヲ禁シタル理由バ如何

答 株券ノ所有者ハ會社ニ對スル權利者ニシテ會社ハ其義務者ナ

リ故ニ若シ會社ニシテ自己カ發行セシ株券ヲ所有シ得ルトキハ權利義務共ニ會社ノ一身ニ合同スルヲ以テ其株券ニ就テ有スル株主ノ權利ハ茲ニ於テ消滅スルニ至レハナリ況ンヤ其結果株主ヲ減シ從テ資本ヲ減額スルニ於テオヤ是レ本條ニ會社カ自己ノ株券ヲ所有スルヲ得サル旨ヲ規定セシ所以ナリ故ニ假令第二百十四條ノ宣言ニ依リテ止ヲ得ス會社ノ所有トナリタル株券又ハ債權ノ辨償ニ依リ會社ノ所有トナリタル株券ト雖モ一ヶ月内ニ公賣シテ其代金ヲ會社ノ財産ニ組入レサルヲ得サルナリ

第二百十八條 會社ハ每年少ナクトモ一回計算ヲ閉鎖シ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又

(附九款 會社ノ義務)



ハ配當金ノ分配案ヲ作り監査役ノ検査ヲ受ケ總會ノ認定ヲ得タル後其財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ公告ス其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルコトヲ要ス

本條ハ別ニ質問ノ点ナシ

第二百十九條 利息又ハ配當金ハ損失ニ因リテ減シタル資本ヲ填補シ及ヒ規定ノ準備金ヲ扣取シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコトヲ得ス  
準備金カ資本ノ四分之一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ二十分一ヲ準備金トシテ積置クコト

### ヲ要ス

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 本條ハ株主ニ配當スル利息又ハ利益配當ヲ爲スニ付テノ制限ヲ規定セリ請フ左ニ其制限ヲ述フヘシ

一 損失ニ因リテ減少シタル資本ヲ填補スルコト

例へハ資本金十萬圓ナルニ一朝失敗シタル爲メ資本金ノ内壹萬圓ヲ減少セシトキハ其損失額即チ壹萬圓ヲ利益ノ内ヨリ補充セサルヲ得サル場合是レナリ

二 規定ノ準備金ヲ扣取スルコト

例へハ本條第二項ニ掲グル如ク準備金が資本ノ四分之一ニ達スルマテハ其利益ノ少ナクモ二十分一ヲ非常ノ災害ノ爲メ準備金トシテ積立置クモノナリ然レモ此準備金ハ前項ニ述フル資



本ノ減少ヲ補充シ且ツ役員給料其他ノ諸費ヲ支拂ヒタル後ノ  
殘金ヨリ積立ツルモノトス

右二個ノ補充及ヒ準備金ヲ引去リタル後チ尙ホ餘金アルコアラ  
サレハ利息又ハ利益ノ配當ヲ爲スヲ得サルモノトス是レ其制裁  
ナリトス

第二百二十條 前二條ノ成規ニ依ラスシテ拂出シタル  
ル利息又ハ配當金ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ  
取戻サント求ムルコトヲ得

問 前二條ノ成規ニ依ラスシテ拂出シタル利息又ハ配當金ヲ受ケ  
タル株主ハ其受ケタル配當金ノ取戻ヲ求メラル、歟  
答 然リ會社又ハ會社ノ債權者ヨリ直接ニ其受ケタル配當金ノ取

戻ヲ請求セラル、モノトス

第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付  
キ拂込ミタル金額ニ應シ總株主ノ間ニ平等ニ之ヲ  
爲ス

本條ハ別ニ質問ノ点ナシ

第二百二十二條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名  
簿、目論見書、定款、設立免許書、總會ノ決議書、每事業年  
度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又  
ハ配當金ノ分配案及ヒ抵當若クハ不動産質ノ債務  
者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中何人ニモ其求



ニ應シ展閲ヲ許ス義務アリ

問 本條ニ掲グル抵當ト云フ語中ニハ動産ト不動産トヲ包含スル歟

答 從來動産ニモ抵當ノ行ハレシモ將來動産ハ抵當ト爲スヲ得サルナリ只質入ニ爲スヲ得ルノミ故ニ本條ニ抵當トアル中ニハ不動産ノミニシテ動産ハ包含セサルモノト知ル可シ

問 本條末尾ニ掲グル通常ノ取引時間トハ如何

答 通常ノ取引時間トハ會社定款ヲ以テ其取引時間ヲ定メ之ヲ公告シタル場合ニハ其時間又ハ如此定メナキ時ハ其他ノ同業會社ノ慣習上ノ取引時間ヲ指シテ通常取引時間ト云フナリ

問 本條ハ展閲トノミアリテ謄寫ノコトヲ云ハサルハ之ヲ許サ、ルノ法意ナルヤ如何

答 本條ニハ謄寫ノコトハ云ハサレトモ商法施行條例第三條ニ於テ「認定ト共ニ謄寫ノ依頼ヲ受ケタルトキハ」云々トアルヲ以テ視レハ展閲ト共ニ謄寫モ許スヘキヤ明ナリ然レモ書類展閲又ハ謄寫ヲ許スコトハ甚タ手數ヲ煩シ會社ニ取ツテハ實ニ迷惑ナル次第ナルヲ以テ一通限リノ書類ノ展閲ノ如キハ公証人ノ認証ヲ受ケタル謄本ヲ以テ展閲ニ代ヘルヲ許シ且ツ展閲ヲ求ムル者アルトキハ會社ハ其株主タルト否トヲ問ハス一人ニ付キ一日五十錢以下ノ手數料ヲ徴收スルヲ得ヘキヲ許セリ  
(商法施行條例第三條第四條參看)

第二百二十三條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度毎ニ一

回一ヶ月ヲ超エサル期間前條ニ定メタル展閲ヲ停

(第九款會社ノ義務)



止スルコトヲ得

問 事業年度ノ終リニ於テ一ヶ月ヲ超エサル期間前條ノ諸書類及ヒ諸帳簿ノ展閱ヲ差留ムル理由ハ如何

答 會社ハ事業年度ノ終リニ際セハ損益ノ精算ヲ立テ財産目錄ヲ調製シ且ツ諸帳簿ヲ整頓シテ通常總會ニ報告スルノ準備ヲ爲サ、ルヲ得ス故ニ此間前條ノ展閱及ヒ謄寫ヲ許サ、ルヲ得サルモノトセハ會社ハ爲メニ事務整頓上大ニ妨ケヲ受クルヲ得レハナリ故ニ本條ニ一ヶ月以内ノ期限ヲ以テ展閱ノ停止ヲ爲スヲ得セシメタルナリ

第十款 會社ノ検査

第二百二十四條 總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル

株主ノ申立ニ因リテ會社營業所ノ裁判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ義務ノ實況及ヒ財産ノ現況ノ検査ヲ命スルコトヲ得

第二百二十五條 検査官吏ハ會社ノ金匣財産現在高帳簿及ヒ總テノ書類ヲ検査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ

第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ顛末及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス

調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ附與シ又株主



及ヒ其他ノ者ヨリ手數料ヲ納ムルトキハ其求ニ應  
シテ之ヲ付與ス

問 會社ノ檢査ヲ請求スル權利アル者ハ何人ナル歟

答 總株金ノ少ナクモ五分一ニ當ル株主是レナリ

問 檢査ヲ爲スノ權利アル者ハ何人ナルヤ

答 會社營業所ヲ管轄スル地方裁判所ナトリス然レモ地方裁判所  
ハ總株金ノ五分一ニ當ル株主ノ申立アルコアラサレハ檢査ヲ  
爲スヲ得サルモノトス

而シテ檢査ニ臨ム官吏ノ數ハ裁判所ニ於テ適宜ニ定ムルモノ  
ニシテ又判事ノミニ限ラス書記モ檢査ニ臨ムコトヲ得ルナリ

問 檢査ニ出張セシ官吏カ檢査スヘキ方法及ヒ權利ヲ承リタシ

答 檢査官吏ハ會社ノ諸帳簿及ヒ諸書類ヲ檢査スルノミナラス財

産ノ現在高及ヒ金匣ヲモ檢査スルコトヲ得而シテ其檢査シタ  
ル廉ニ付キ不明瞭且ツ嫌疑ノ點アルトキハ取締役監査役其他  
ノ役員ニ就キ其不明且ツ嫌疑ノ點ヲ一々詳密ニ説明ヲ爲サシ  
ムルノ權利アリ

然レモ檢査役ハ其檢査ノ結果ニ因リテ處分ヲ爲スノ權ナク只  
檢査ヲ遂ケタル顛末及ヒ結果ヲ授命ノ裁判所へ報告スルニ止  
ルモノトス

而シテ裁判所ハ檢査官吏ヨリ提出セシ檢査ノ顛末及ヒ取締役  
其他役員ノ供述セシ調書ノ謄本ヲ製シ之レヲ會社ニ附與シ又  
株主其他ノ者ヨリ求テ受ケタルトキハ相當ノ手數料ヲ納メシ  
メテ之ヲ附與スルナリ



問 裁判所ハ検査官吏カ報告セシ結果ニヨリ之レヲ處分スルノ權アリヤ

答 裁判所カ其結果ニ因リ處分スル場合ハ會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害スヘキ事業アルトキノミ會社解散ヲ命スルノ處分ヲ爲ス其他ノ場合ニ於テハ決シテ處分ヲ爲スヲ得サルナリ故ニ其處分ヲ爲スヘキモノハ獨リ株主總會ノミナリトス

第二百廿七條 主務省ハ何時ニテモ其職權ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 主務省ハ(主務省トハ第五百五十九條ノ)公益ノ爲メ何時ニテモ職

權即チ見込ヲ以テ地方長官(府縣)又ハ其他ノ官吏ニ(警察)命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル検査ヲ爲スコトヲ得主務省ハ検査ニヨリ破産其他會社解散ヲ命スヘキ理由アリト看認ルモ己レ直チニ處分ヲ爲スヲ得ス斯ル場合ニハ裁判所ヘ其處分ヲ請求スルモノトス  
然レモ特別法ヲ以テ其處分權ヲ主務省即チ行政官廳ニ附與シタルトキハ此限リニ非ス  
米商會社及ヒ株式會社國立銀行等ニハ各其條件ヲ以テ主務省タル行政官廳ニ其處分權ヲ許シタリ是レ特別法ヲ以テ行政官廳ニ其處分權ヲ許シタル例ナリトス(米商會社條例株式取引所條例銀行條例參看)

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル

(第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟)



訴訟

第二百二十八條 總會ハ監査役又ハ特ニ選定シタル

代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲ス

コトヲ得

問 取締役監査役ニ不正ノ所爲アルトキ此等役員ニ對シテ總會ヨ

リ出訴ヲ爲スニハ如何ナル手續ヲ以テ爲サ、ル可ラサル歟

答 取締役ハ越權又ハ不正ノ所爲アルトキハ總會ハ之レカ原告人

トナリ取締役ニ對シテ訴訟ヲ爲スナリ雖然總會ハ無形人ナルヲ

以テ監査役ヲ以テ代人トナシ訴訟ヲ爲サシムルナリ若シ監査

役ヲシテ代人トナスノ不都合アルトキハ特ニ選任シタル代人

ヲ以テナスモノトス

監査役ニ於テモ取締役ト共謀シ若クハ第九十二條ノ責務ヲ

缺キ會社ニ對シテ賠償ノ責ニ任スヘキコトアリ如此場合ニ在

ツテハ會社ハ特ニ選任シタル代人ヲ以テ監査役ニ對シテ訴訟ヲ

爲スコトヲ得

又取締役及ヒ監査役ヲ同時ニ被告トトシ出訴スルモ妨ケナキ

モノトス

第二百二十九條 會社資本ノ少ナクトモ二十分一ニ

當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又

ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得但各株主ノ

自己ノ名ヲ用井又ハ參加人ト爲リ裁判所ニ於テ其

權利ヲ保衛スル權ヲ妨ケス

(第十一條 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟)



問 本條ノ説明ヲ承リタシ

答 本條ハ或ル株主ニ於テ取締役又ハ監査役ニ對シ訴訟ヲ爲スノ必要ヲ感シ之ヲ總會ニ提出セシニ株主ノ多數ニ制セラレ其意見ヲ貫徹スル能ハサリシガハ株主共同ノ利益ヲ保衛セントスルモ能ハサルナリ然ラハ此一部ノ株主ハ之ニテ止ン歟甚タ遺憾ナキヲ得ス且會社ニ探テモ亦利益ナラス故ニ本條ハ此一部ノ株主ニテ取締役監査役ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權利ヲ與ヘタリ然レモ會社資本ノ二十分一ニ當ル株主一致スルニ非サレハ之ヲ許サス是レ即チ濫訴ノ弊ヲ防止スルノ趣意ニ出テシモノナリ

右ノ訴訟ヲ爲スニハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ爲ス可シ然レモ一旦訴訟ノ起リタル以上ハ株主ハ自己ノ名ヲ用キ又ハ參加人トナリ裁判所ニ於テ其權利ヲ保衛スルハ妨ナキモノトス(本條但書參看)

### 第十二款 會社ノ解散

第二百三十條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

- 第一 定款ニ定メタル場合
- 第二 株主ノ任意ノ解散
- 第三 株主ノ七人未滿ニ減シタルコト
- 第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルコト
- 第五 會社ノ破産
- 第六 裁判所ノ命令

(第十二款 會社ノ解散)



問 本條各個ノ説明ヲ承リタシ

答 第一 定款ニ定メタル場合

例へハ定款ニ於テ會社存立時期ノ定メアルトキ又ハ何々ノ事  
故ノ發生セシトキハ會社解散スヘシトノ定メアルトキ是レナ  
リ

第二 株主ノ任意ノ解散

任意ノ解散トハ總會ノ決議ニ因ツテ解散スル場合ヲ云フナリ  
是レ會社ハ固ト株主ノ承諾ニ因ツテ成立セシモノナルヲ以テ  
亦總株主ノ承諾アルトキハ何時ニテモ解散ヲ爲スコトヲ得ル  
ナリ

第三 株主ノ七人未滿ニ減シタルトキ

株式會社ハ七人以上ニ非サレハ設立スルヲ得ス故ニ設立後七

人未滿ニ減シタルトキハ會社成立ノ一要件ヲ缺クヲ以テ勢ヒ  
解散セサルヲ得サルモノトス

第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルトキ

會社ハ總株式ノ四分一以上ノ拂込ナキ以上ハ設立ノ登記ヲ爲  
スヲ得ス登記ヲ受ケサレハ會社設立セス以是觀之ハ株式ノ四  
分一以上ノ拂込ハ會社設立ノ一要件ト云フモ可ナリ故ニ設立  
後資本ノ四分一未滿ニ減シタルトキハ此成立要件ヲ缺クヲ以  
テ從テ會社解散セサルヲ得サルナリ

第五第六項ハ別ニ説明スルヲ要セス

第二百三十一條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メ  
タル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履

(第十二款 會社ノ解散)



行スル外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ハラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 會社解散スルトキハ取締役ハ同時ニ一切ノ業務施行ヲ停止シ總會ヲ招集セサル可ラス而シテ其總會ニ於テ一人又ハ數人ノ清算人ヲ選任シ之ニ殘務ヲ整理セシム然レモ取締役ハ總會ニ於テ清人算ヲ選定スルマテ左ノ職務ニ限リ之ヲ取扱フヲ得

- 一 既ニ始メタル取引ヲ完結スル

既ニ始メタル取引ヲ完結セサルトキハ會社ニ對シ損害ヲ醸シ延テハ其債權者ニ害ヲ被ムラシムルヲ以テ此特例ヲ設ケ

タルモノトス

二 現ニ存在スル會社ノ義務ヲ履行スルコト

本項モ亦第一ノ場合ト其理由同一ナリトス

取締役ニシテ右二箇ノ場合ノ外ノ取扱ヲナスルハ其取引ハ無効トナリ取締役ハ自己ノ全財産ヲ以テ其責任ヲ負ハサルヲ得サルナリ

第二百三十二條 會社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ總會ヲ招集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判所ノ命令ニ依リテ解散スル場合ハ此限ニ在ラス

其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除ク外一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

(第十二款 會社ノ解散)



問 會社解散ノ原由ノ生シタルトキハ會社ハ當然解散スヘキモノナルヲ以テ別ニ總會ノ決議ヲ要セサルモノ、如シ如何

答 理論上ヨリ視ルトキハ別段總會ノ決議ヲ要セサルモノ、如シト雖モ會社ノ總會ノ決議ニ因ツテ成立セシモノナレハ之ヲ解散スルニモ亦總會ノ決議ニ基クテ穩當ナリトス殊ニ第二百三十條第一ノ場合ニ於テハ尙ホ會社ヲ繼續スルノ協議ヲナシ又第三、第四、第五ノ場合ニ於テハ救済ノ策ヲ議シ會社ヲ維持スルヲ決議ヲ爲ス場合アレハナリ  
又第二ノ任意ノ解散ニ付テハ必ス總會ノ決議ニ依ラサルヲ得サレハナリ

如此總會ノ決議ハ決ノ無要ニアラサルヲ以テ解散ノ原由ノ生シタルキハ取締役ハ必ス總會ヲ招集セサルヘカラサル者トス然レモ第六ノ裁判所ヨリ解散ヲ命セラレタルトキハ總會ヲ招集スルノ要ナシ

問 總會ニ於テ會社解散ノ決議ヲナシタルトキハ爾後ノ事務ハ何人カ之ヲ整理スルヤ

答 會社解散ノ決議ヲナスルハ其事業ハ茲ニ於テ一切消滅シ爾後清算ノ事務トナルヲ以テ從來取締役ノ職務權限ハ消滅スルモノトス故ニ總會ハ一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定シ之ヲシテ清算事務ヲ處理セシムルナリ  
然レモ第二百三十條第五ノ破産ノ場合ニ於テハ清算人ヲ選定セズ其所以ハ破産ノ場合ニハ管財人ヲシテ其事務ヲ處理セシムルヲ以テナリ

問 解散ノ決議方法ハ如何

(第十二款 會社ノ解散)



答 任意ノ解散ノ場合ニハ第二百三條其他ノ場合ニハ第二百二條ノ規定スル方法ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第二百三十三條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清

算人ノ選定ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ債務者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルコトヲ得

問 前條ニ掲ケル總會ヲ取締役ニ於テ招集セズ又ハ總會ニ於テ決議ヲ爲サス又ハ清算人ヲ選定セサルトキハ如何

答 取締役カ會社解散ノ場合ニ於テ總會ヲ招集セサル歟又ハ總會ヲ招集スルモ其總會ニ於テ決議ヲ爲サル歟又ハ決議ヲ爲スモ清算人ヲ選定セサルトキハ裁判所ハ會社ノ債權者若クハ株

主ノ申立ニヨリ會社解散又ハ清算人ヲ任スルノ命令ヲ爲スヲ得

又裁判所ハ縱ヒ債權者若クハ株主ノ申立ナキモ見込ヲ以テ解散又ハ清算人ヲ任スルノ命令ヲ爲スヲ得ルナリ

問 取締役ニ於テ前條ノ規定ニ背キ總會ヲ招集セサルトキハ如何ナル制裁ヲ受クル歟

答 其制裁ハ第二百三十八條ニアリ就テ見ル可シ

第二百三十四條 會社ハ破産ノ場合ヲ除ク外決議後

七日内ニ解散ノ原由年月日及ヒ清算人ノ氏名住所ノ登記ヲ受ケ之ヲ裁判所ニ届出テ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ



主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

問 會社解散ノ決議ヲナシタルトキハ爾後如何ナル手續ヲ施サ、ルヲ得サル歟

答 會社解散ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ翌日ヨリ起算シ七日迄ニ左ノ事項ノ登記ヲ受ク可シ

一 解散ノ理由

例ヘハ資本ノ減少ニ因ルコト又ハ存立時期ノ満了ニ因ルコト等是レナリ

二 年月日

三 清算人ノ氏名住所

斯ク登記ヲ受ケ尙ホ此趣キヲ裁判所ニ届出サル可ラス  
右ノ規定ハ總會ノ決議ニ因ルト裁判所ノ命令ニ因ルト否トシ

問 ハス等シク適用セラル、モノトス然レモ破産ノ場合ハ別ニ破産宣告ノ公告アルヲ以テ本條ノ手續ヲ爲スヲ要セサルナリ

(第九百六十條參看)

然レモ各株主ヘノ通知及ヒ主務省ヘノ届出ハ破産ノ場合ニモ亦之ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ

第二百三十五條 裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實況ヲ監

視スル權アリ

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 本條ハ株主及ヒ債權者ヲ保護セン爲メ會社解散后ノ實況及ヒ清算事務ノ實況ヲ監視スルノ權ヲ裁判所ニ與ヘ以テ清算人カ不正若クハ違法ノ處置ナカラシメンコトヲ豫防シタルモノナリ

(第十二款 會社ノ解散)



第二百三十六條 登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應シ清算事務ヲ補助スル義務アリ

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 本條ハ取締役ノ代理權ノ消滅スル時期ヲ定メタリ其時期ハ第二百三十四條ニ掲クル解散ノ登記ヲ受ケタル日是レナリ而シテ此期限ノ到達スルヤ取締役ハ一切ノ事務ヲ清算人ニ引渡シ自己ノ職務ヲ免カル、ナリ然レモ取締役ハ元來會社ノ事務ニ通曉シ其取引上ノ關係ヲ熟知シ居ル者ナルヲ以テ清算人ハ清算事務ヲ抄取ラシメン爲メ取締役ニ其補助ヲ求ムルヲ得此求ノヲ受ケタル取締役ハ萬止ムヲ得サル事故アルニアラサレ

ハ之ヲ謝絶スルヲ得サルモノトス

第二百三十七條 登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効タリ但特別ノ理由アリテ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

問 登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効ナリト在リ其清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分トハ如何ナル場合ヲ指ス歟

答 清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分如何ヲ知ラント欲セハ先ツ姑ラク其裏面ナル清算ノ目的ノ爲メニスル財産ノ處分如何ヲ知ルヘシ而シテ此裏面ヲ知り得ルトキハ其正面ナル目的

(第十二款 會社ノ解散)



ノ爲メニセサルモノハ自ラ了解シ得ラルヘシ依テ左ニ其裏面ニ付キ聊之ヲ述ヘントス  
 清算ノ目的ノ爲メニスル財産ノ處分トハ例ヘハ解散前既ニ賣買ノ結約シアルトキハ其契約ヲ履行センカ爲メ商品ヲ受授シ又既ニ支拂フヘキ義務ノ遺存スルトキハ其義務ヲ償却セン爲メノ財産ヲ賣却スルカ如キ即チ清算ノ目的ノ爲メニスル處分ナリトス

然レモ本條但以下ニ之レカ例外アルヲ示シタリ  
 其例外トハ株式ニ付テハ株主死去シタルカ爲メ其相續人ニ移轉セサルヲ得サル場合ヲ云ヒ又財産ノ處分ニ付テハ會社財産ノ損失ヲ避ケンカ爲メ處分ヲ爲サル場合等ヲ云フ  
 會社解散前多量ノ製造原料品ノ仕入在ルトキ之ヲ原料ノ儘ニ

テ賣却スルトキハ價甚タ廉ニシテ其損失尠カラヌ寧ロ之レヲ製造シテ賣却スルノ利益且ツ賣捌ノ容易ナル場合アリ如此場合ニハ裁判所ノ許可ヲ得テ其製造事業ヲ續行シ且ツ販賣ヲ爲スヲ得然レモ新タニ原料品ヲ買受ケテ製造ヲ爲シ又ハ新タニ商品ヲ買受ケ販賣ヲ爲スカ如キハ清算事務ノ目的ニアラサルヲ以テ之ヲ許サ、ルナリ

## 第二百三十八條 取締役カ總會ノ招集又ハ登記ノ届

出ヲ爲ササリシトキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

問 取締役カ第二百三十二條ニ背キ總會ヲ招集セス又第二百三十

(第十二款 會社ノ解散)



四條ニ背キ解散ノ登記ヲ爲サ、ルトキハ如何ナル制裁ヲ被ムル歟

答 取締役カ第二百三十二條ノ規定ニ背キ總會ヲ招集セサルトキハ第二百五十七條ニ規定スル處ノ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル又第二百五十四條ニ背キ登記ヲ受ケサルトキハ第二百五十六條ノ過料ニ處セラル、ナリ猶ホ此外會社又ハ第三者ヘ之レカ爲メ損失ヲ被ムラシメタルトキハ其損害ニ付キ自己ノ全財産ヲ以テ其責任ニ當ラサルヘカラス

第二百三十九條 解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會社

財産中ヨリ最モ先ニ之ヲ支拂フモノトス

問 解散及ヒ清算ノ費用ハ會社財産中ヨリ先取ノ權アルコトハ承知

セリ其費用トハ如何ナルモノヲ指ス歟

答 解散ノ費用トハ解散ノ通知及ヒ解散ノ登記ノ手数料裁判所へ登記届出ノ費用等ヲ云フ清算ノ費用トハ清算人ノ報酬貸金ノ取立又ハ義務履行ノ費用等苟モ清算事務ニ關スル總テノ費用ハ此中ニ包含スルモノナリ

第十三款 會社ノ清算(精算ノ云ヒナリ)

第二百四十條 清算人ノ職分ニ付テハ第三百三十條及

第三百三十一條ヲ適用ス。

本條ハ別ニ質問ノ点ナシ

爰ニ一ノ注意スヘキアリ第三百三十一條ニ「社員」トアルハ株式會社ニ適用スルハ之ヲ「總會」ト視テ讀ムヘシ

(第十三款 會社ノ清算)



第二百四十一條 清算人ノ職分ノ踐行ニ付テハ總會

ヨリ又ハ株主若クハ債權者ノ申立ニ因リテ裁判所

ヨリ清算人ニ訓示ヲ與フルコトヲ得清算人ハ其訓

示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スル責任ヲ負フ

問 清算人ノ職分ノ踐行ニ付テノ訓示トハ如何

答 訓示トハ清算人ノ事務取扱上ニ付テノ方法ヲ指示スルニ止ル

モノニシテ決シテ清算人ノ權限ヲ減縮スルモノニアラサルナ

リ然レモ妄リニ訓示ヲ爲シ其程度ヲ超ユルトキハ終ニハ第百

三十一條ノ旨趣ニ悖戾シ其權利ヲ制限シタルト同一ノ結果ヲ

來スナキヲ保セサルヲ以テ訓示ヲ爲ス者ハ宜シク此邊ニ注意

セサル可ラサルモノトス

問 裁判所ハ職權即チ見込ヲ以テ訓示ヲ爲スヲ得ヘキヤ

答 裁判所ハ職權ヲ以テ訓示ヲ爲スヲ得ス必ス總會又ハ株主若ク

ハ債權者ノ申立アルコトヲ要ス

併シ總會又ハ株主若クハ會社ノ債權者ノ申立アルモ裁判所ハ

其申立ヲ容レ必ス訓示ヲ與ヘサルヲ得サルノ義務ナシ故ニ其

訓示ヲ與フルト否トハ裁判所ノ自由ナリトス

清算人右ノ訓示ヲ受クルトキハ必ス之ヲ遵守スルノ義務アリ

又本法及ヒ其他ノ法律ノ規定ヲモ遵守セサル可ラス故ニ若シ

之ニ違背シ爲メニ損害ヲ加ヘタルトキハ被害者ニ對シテ之ヲ

賠償スルノ責任ヲ負フモノトス

第二百四十二條 會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ

(第十三款 會社ノ清算)



爲シタル申立ニ因リ總會又ハ時宜ニ從ヒテ裁判所  
ハ債權者ノ利益護視ノ爲メ一人又ハ數人ノ代人ヲ  
シテ清算ヲ監査シ又ハ清算人ニ參加セシムルコト  
ヲ得

問 會社ノ債權者ヲシテ清算事務ニ干涉セシムル理由ハ如何

答 株式會社ハ有限責任ナルヲ以テ其責任會社財産ノミニ止ル故  
ニ其財産ノ清算事務如何ハ債權者ノ利害ニ大ナル關係ヲ及ホ  
スモノトス殊ニ清算人ノ如キハ株主總會ニ於テ選任セシモノ  
ナレハ株主ト清算人ト通謀シ不正ノ精算ヲ爲スモ難計且債權  
者ハ清算人ノ人物ニ信用ヲ置カサルナキ能ハス是レ前條ノ外  
猶ホ本條ヲ以テ充分ニ債權者ヲ保護シタル所以ナリトス

問 債權者ニシテ若シ清算事務ニ付キ嫌疑ヲ狹ミ又ハ不安ノ意ヲ  
懷ク等ノ場合ニハ如何ナル手續ヲ以テ清算事務ニ干涉スル  
ヲ得ルヤ

答 如此嫌疑ヲ狹ミ又ハ不安ノ心ヲ懷ク等ノコトアルトキハ相當ノ  
理由ヲ申立テ干涉ヲ總會ニ對シ請求ス可シ若シ總會之ヲ肯セ  
サル歟又ハ總會ニ請求スルヲ得サルノ情實アルトキハ直チニ  
裁判所へ申立ツルヲ得而シテ總會又ハ裁判所ニ於テ此ノ申  
立ヲ相當ナリト看認ムルトキハ債權者ノ利益ヲ保護スル爲メ  
一人又ハ數人ノ代人ヲシテ清算事務ヲ監査シ又ハ清算人ニ參  
加セシムルヲ得

債權者ノ代人カ參加シタルトキハ清算人ハ共同シテ其事務ヲ  
取扱ハサルヲ得サルモノトス



問 清算事務ニ債權者本人干渉スルヲ禁シ代人ヲ以テ之ニ代ハラシメタル理由ハ如何

答 債權者ヲシテ干渉セシムルトキハ其人員ノ多數ナル爲メ清算事務ニ紛擾ヲ來シ且事ヲ決スルニ偏頗ナキヲ保セサルヲ以テ之ヲ禁シ代人ヲ以テ干渉スルヲ得セシメタル所以ナリトス

問 清算事務ニ干渉セシ代人ノ責任ハ如何

答 此責任ヲ論スルニ付テハ左ノ二個ニ分テ説明セサルヲ得ス

一 清算事務ヲ監査セシトキ  
此場合ニ於テハ清算事務ニ付キ過失又ハ不正ノ行爲アルヲ露見スル能ハサリシトモハ其露見スル能ハサリシ不注意ノ責任ヲ負ハサルヘカラス然レモ清算事務ノ如何ニ就テハ責任ナキモノトス

二 清算事務ニ參加セシトキ

此場合ニ於テハ清算事務上ニ就キ清算人カ負フヘキ責任ト殆ント同一ナリトス  
然レモ代人ハ清算人ノ身分アルコアラサレハ清算人ノ責任ト悉ク同一ナリト云フ能ハス宜シク實際ノ問題ニ付キ適當ナル判定ヲ下スヘキモノトス

右孰レヲ問ハス代人ノ責任ハ會社ノ債權者ニ對スルモノニシテ株主ニ對シテハ更ニ責任ヲ負ハサルモノトス

第二百四十三條 清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日內

ニ會社帳簿ニ依リテ其財産ノ現況ヲ取調ヘ少ナクトモ三回ノ公告ヲ以テ債務者ニハ其債務ノ辨濟期



限ニ至リタル時直クニ之ヲ辨済ス可ク又債權者ニハ或ル期間ニ其債權ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ六十日ヲ下ルコトヲ得ス其公告ニハ債權者期間ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ヲ清算ヨリ除斥セラルル旨ヲ附記ス然レトモ清算人ハ期間ニ申出テサル債權者ト雖モ其知シタル者ヲ清算ヨリ除斥スルコトヲ得ス

問 清算人カ清算事務ニ着手スル順序ハ如何  
答 其順序左ノ如シ

一 清算人ハ選任セラレタル日ヨリ起算シ六十日以内ニ會社帳簿ヲ調査シテ其財産ノ現況及ヒ貸方借方等ヲ取調ヘ此期

日内ニ三回以上ノ公告ヲナシ以テ會社ノ債務者ヲシテ其債務ノ返済期限ノ至リタルトキ直チニ之ヲ辨償セシム可シ

二 又清算人ハ選任セラレタル當日ヨリ起算シ六十日以内ニ三回以上ノ公告ヲナシ且ツ相當ノ猶豫期限ヲ定メ該期限内ニ債權者ハ其債權ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス其相當ノ猶豫期限ハ六十日以上タルヘシ故ニ清算人ハ七十日又ハ八十日ト適宜ニ定ムルヲ得然レモ六十日以内ニ定ムルヲ得ス而シテ其公告ニハ期限内ニ債權ノ申出ヲ爲サルトキハ其債權ヲ清算ヨリ除斥スル旨ヲ附記シ債權者ノ注意ヲ喚起セサル可ラス

如此三回以上ノ公告ヲナシ且申出ノ爲メ六十日以上ノ猶豫



ヲ與ヘタルニ尙ホ其期間申出ナキトキハ最早債權者ハ之レ  
 ナキモノト看做シ會社ノ債務ト現財產トヲ比較對照シテ清  
 算ヲ確定スヘキモノトス故ニ此期間ニ申出サル債權者ハ第  
 二百四十五條ノ辨濟ヲ受クルニ止ルモノトス

然レモ此期限ヲ定メ債權ノ申出ヲ爲サシムルモノハ清算人  
 カ知ラサル債權者ノ爲メニ爲スモノナルヲ以テ己ニ知レタ  
 ル債權者ノ債權ニ付テハ仮令其申出ナキモ之ヲ清算中ヨリ  
 除斥スルヲ得サルナリ

## 第二百四十四條 清算人ハ其期間滿了前ニ於テハ債 權者ニ支拂ヲ爲シ始ムルコトヲ得ス

問 清算人カ前條ニ依リ債權者ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ期限ヲ

定メ公告ヲ爲シタルトキハ其期間滿了スルニアラサレハ債權  
 ノ支拂ヲ爲スヲ得サル理由ハ如何

答 期間滿了ニ至ル迄ハ如何ナル債權者カ現出スルヤ計リ知ル可  
 ラス然ルヲ清算人ニ於テ其期間滿了ヲ待タス債權者ノ或ル部  
 分ニ對シ其債權ヲ支拂フタリトセハ其未タ申出ナキ債權者ハ  
 之レカ爲メ損害ヲ被ムルナキヲ保セス仮令ハ會社ノ財產十萬  
 圓アリ而シテ其負債高五萬圓乃至八萬圓ナルトキハ之カ爲メ  
 決シテ他ノ債權者ニ害ヲ及ホサ、ルモ若シ負債ノ高十萬圓以  
 上ナルトキハ未タ申出サル債權者ハ必ス幾分ノ損害ヲ受ケサ  
 ル可ラス何ントナレハ如此會社財產ヲ以テ辨償ニ充ツルニ猶  
 ホ不足ナル場合ニハ其財產ハ各債權者ノ債權額ニ比例シテ平  
 等ニ分配スヘキモノナルヲ以テ其分配高ニ幾分ノ減少ヲ來サ



ルヲ得サレハナリ是レ本條ニ清算人ハ期間滿了前ニハ假令  
ヒ負債ノ一部分タリト支拂ヲ爲スヘカラサルモノト規定セシ  
所以ナリ

問 其期間滿了前ニ既ニ辨濟期限ノ到着セシ債權ニ對シテモ尙ホ  
期限滿了ニ至ル迄支拂ヲ停止スヘキモノナル歟將タ滿了ヲ待  
タス支拂フヘキモノナル歟如何

答 假令期間滿了前ニ返濟期限ノ到着セシ債權ト雖モ同シク滿了  
迄支拂ヲ爲スヲ得サルモノト知ルヘシ

第二百四十五條 期間後ニ申出テタル債權者ハ會社  
ノ債務ヲ濟了シタル後未タ株主ニ分配セサル會社  
財産ノミニ對シテ其辨償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

問 期間後ニ申出タル債權者ハ會社財産ニ對シ辨償ヲ求ムルノ途  
ナキ歟如何

答 清算人ニ於テ第二百四十三條第一項ニ依リ相當ノ猶豫期限ヲ  
與ヘ且ツ第二項ニ依リ其期間ニ申出ヲ爲サ、ルトキハ清算中  
ヨリ除斥スル旨ノ公告ヲ爲シタルニモ拘ハラヌ尙ホ其期間ニ  
申出ヲ爲サ、ル者ハ必竟清算中ヨリ除斥セラル、コトヲ甘受セ  
シモノト云ハサル可ラス若シ否ラストスルモ其怠慢ノ責ハ固  
ヨリ免カル、ヲ得サルモノト是レ毫モ怠リナキ他ノ債權者  
ト同一ノ利益ヲ受クル能ハサル所以ナリ然レモ此等債權者ト  
雖モ會社ノ債權者タルニハ相違ナキヲ以テ之カ爲メ全ク其權  
利ヲ消失セシムルカ如キハ法律ノ欲セサル處ナリ故ニ此等債  
權者ニ與フルニ尙ホ左ノ權利ヲ以テセリ

(第十三款 會社ノ清算)



一 期間ニ申出サル債權者ハ會社ノ總テノ債務即チ負債ヲ辨濟シタル後未タ株主ニ分配セサル會社財産ノミニ對シ其辨償ヲ求ムルヲ得ルノ權アリ

由是觀之ハ會社財産ヲ以テ總テノ債務ヲ辨濟シ剩餘ノ財産ナキトキハ其債權ハ全ク請求スルノ途ナク茲ニ於テ債權者ノ損失トナルナリ

會社財産ヲ以テ總テノ債務ヲ濟了シ若干ノ剩餘アルモ既ニ之ヲ株主ニ分配シタル以後ナルトキハ亦其債權者ノ損失トナル可シ

## 第二百四十六條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲシテ其未

タ全額ヲ拂込マサル株券ニ付キ拂込ヲ爲シシムル權

## 利アリ

問 清算人ハ清算ノ爲メ未タ金額ノ拂込ヲ爲サ、ル株主ヲシテ其株金ノ拂込ヲ爲サシムルノ權利アルコトハ本條ニテ明カナリ然ルニ會社財産ヲ以テ其負債ヲ支拂フニ充分ニシテ株主ヘ分配スヘキ餘裕アルトキト雖モ尙且ツ其拂込ヲ請求スヘキヤ

答 此場合ニ於テハ株金ノ拂込ト分配トヲ差引スルヲ可トス何ントナレハ拂込ヲ爲サシメ又之ヲ分配スルハ無用ノ手數ヲ煩スニ過キサレハナリ

## 第二百四十七條 清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキ

ハ何時ニテモ總會ヲ招集スルコトヲ得又清算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メタルトキ又ハ總株金ノ



少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ申立ツルトキハ總會ヲ招集スル義務アリ

問 清算人ハ總株金ノ五分一ニ當ル株主ヨリ總會招集ノ求メアリシトキ其總會ヲ不必要ト看認メタルトキハ之ニ應セサルモ可ナルヤ

答 清算人ハ假令總會ヲ招集スルノ不必要ナルヲ看認ムルモ其求ヲ拒ムノ權ナク必ス之ニ應シ總會ヲ招集セサルヲ得サルモノトス

第二百四十八條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求ム

第二百四十九條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認定ヲ得タ

ルトキハ會社ノ債務ヲ濟了シタル殘餘ノ財産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應シ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス此分配ハ總債權者ニ辨償シタル時ヨリ三個月ノ滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

株主ハ總會ニ於テ金錢ニ非サル物ヲ以テ分配ス可キ決議ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ受取ル義務ナシ

問 清算人カ各債權者へ辨濟シタル剩餘ノ會社財産ヲ株主へ分配スルニハ如何ナル手續ヲ爲サ、ルヲ得サル歟

答 清算人ハ會社ノ債權ニ屬スルモノハ之ヲ取立テ賣却ス可キ物ハ之ヲ賣却シ且會社ノ負債ニ屬スル高ヲ取調へ以テ正確ナル現在ノ高ヲ得タルトキハ直チニ總會ヲ招集シ其計算書ヲ提出

(第十三款 會社ノ清算)



シテ之カ認定ヲ求メザル可カラス  
 清算人ハ總會ニ於テ此計算書ノ認定ヲ得タトキハ先ツ會社  
 ノ各債權者ニ其債權額ヲ辨濟シ而シテ后チ尙ホ剩餘ノ財産ア  
 ルトキハ各株主ニ對シ株金高ニ比例シテ平等ニ分配ス可シ  
 然レモ各株主ニ分配スルニハ會社ノ總債權者ヘ辨濟シ終リタ  
 ル日ヨリ起算シテ滿三ヶ月ノ後ニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サ  
 ルモノトス是レ第二百四十五條ニ掲クル期間申出ヲ爲サハル  
 債權者ヲ保護スルノ意ニ出ラタルモノナラン  
 而シテ會社カ各株主ヘ爲スヘキ分配金ハ必ス金錢ナラサル可  
 ラス又縱令ヒ總會ニ於テ金錢ニアラサル物ヲ以テ分配スヘキ  
 決議ヲ爲シタルトキト雖モ之ニ不服ナル株主ハ物品ヲ以テ分  
 配ヲ受クルコトヲ拒ムノ權アルモノトス

又最初株式拂込金ニ換ヘ物件ヲ以テ拂込タル者ト雖モ同一ナ  
 リトス其所以ハ一旦拂込ヲ爲シタル上ハ直チニ會社ノ財産ト  
 ナリ所有權ハ同時ニ會社ニ移轉シ金錢ヲ以テ拂込タルト毫モ  
 異ナルナケレハナリ

## 第二百五十條 清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及

ヒ一般ノ事務報告書ヲ總會ニ差出シテ卸任ヲ求ム若  
 シ總會ニ於テ卸任ヲ許ササルトキハ裁判所ハ清算人  
 ノ申立ニ因リ其命令ヲ以テ之ヲ許スト否トヲ定ム但  
 其命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

問 清算人ハ如何ニシテ其責任ヲ免脱シ得ルヤ

答 清算人ニシテ既ニ計算書ノ認定ヲ受ケ會社ノ總債權者ヘ債務

(第十三款 會社ノ清算)



ヲ濟了シ且株主へ其剩餘金ヲ分配セシトキハ重要ナル清算事務ハ茲ニ於テ結了スルヲ以テ一切ノ計算書及ヒ事務報告書ヲ總會ニ提出シ卸任ヲ求ムルヲ得ルナリ

總會ニ於テ此求ヲ受ケタルトキハ先ツ其計算書及ヒ報告書ヲ調査シ敢テ計算上不都合ナシト看認ムルトキハ直チニ其求ヲ許容シ若シ不都合ノ點アリト認タルトキハ之ヲ許容セサルナリ此場合ニ於テハ清算人ハ其許容セサルハ不當ナリトノ理由ヲ裁判所ニ申立卸任ノ命令ヲ請フヲ得然ルトキハ裁判所ハ其申立ヲ聽キ許否ヲ命令スルナリ而シテ其命令ニ對シ不服ヲ唱ヘントスル者ハ即時抗告ヲ爲スヲ得ルナリ

## 第二百五十一條 清算人ハ其行爲ニ付キ總會ノミニ對

シテ責任ヲ負フ然レトモ其行爲ニ因リ或ル株主ノ一己ノ權利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シテ其權利ノ承認及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得

問 清算人ハ各株主ニ對シ責任ヲ負ハスシテ總會ニ對シ責任ヲ負フ所以ハ如何

答 清算人ハ總會ノ代理人ニシテ株主各自ノ代理人ニアラサルヲ以テ其本主タル總會ニ對シテノミ責任ヲ負フモノナリ然レモ其行爲ニヨリ或ル株主一己ノ權利ヲ害シタルトキハ其責任ヲ免カル、ヲ得ス

株主一己ノ權利ヲ害スルトハ例へハ甲株主へ分配スヘキモノヲ乙株主へ分配シ爲メニ甲株主ニ損失ヲ被ムラシメタルカ如



キ場合はレナリ

問 清算人ノ責任ハ無限ナル歟將タ有限ナル歟又其責任ハ連帶ナルカ將タ分擔ナル歟

答 清算人ノ權限ノ重且大ナル取締役ノ權限ニ一步モ讓ラサルモノトス然リ然ラハ既ニ取締役ノ責任ニシテ無限且ツ連帶ナル以上ハ清算人ニ於テモ亦同一ノ責任ナリト論定セサルヲ得サルナリ

第二百五十二條 清算人ハ卸任ヲ得タル後商業登記簿

ニ清算結了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ之ヲ三個月ノ期間ニ主張ス可キ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタル

ルトキハ清算人ニ於テ之ヲ辨了ス

問 清算人ニシテ卸任ヲ得タルトキハ如何ナル手續ヲ施サ、ルヲ得サル歟

答 清算人卸任ヲ得タル後尙ホ左ノ手續ヲ爲サ、ル可ラス

一 商業登記簿ニ清算結了ノ登記ヲ受クル

二 清算結了ノ公告ヲ爲サ、ルヘカラサル

此公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ三個月内ニ申出可キ旨ヲ附記スヘシ而シテ此期間中申出アルトキハ清算人ニ於テ之ヲ處辨シ了ルノ義務アルモノトス  
清算人ニシテ之ヲ辨了セントスルトキハ勢ヒ多少ノ金錢ヲ要スルヲ以テ株主ヘ分配スル金額ノ内ヨリ幾分ヲ引去リ貯存シ置クヲ要ス



右述フル處ノ三ヶ月ノ期限ハ登記ヲ受ケタル日ヨリ起算スルモノト知ルヘシ

第二百五十三條 清算中ニ現在ノ會社ノ財産ヲ以テ會社ノ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ破産手續ノ開示ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ通知ス  
此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒタルモノ有ルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得清算人カ貸方借方ノ此ノ如キ關係ナルコトヲ知リテ爲シタル支拂ニシテ其受取人ヨリ取戻シ得サルモノニ付テハ債

權者ニ對シテ其責任ヲ負フ

問 清算中現在ノ會社財産ヲ以テ總債主ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ如何ニシテ清算事務ヲ結了スル歟

答 如此場合ニ至リタルトキハ清算人ハ破産手續ヲ開始シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ對シテハ右公告ノ外特ニ其旨ヲ通知ス可シ

清算人ニシテ此手續ヲ踐行シ裁判所ニ於テ破産宣告ヲ爲スルハ清算人ノ職務權限ハ茲ニ於テ消滅シ爾后ハ裁判所並ニ管財人ニ於テ其財産ヲ處分スルモノトス

問 清算人ニシテ此手續ヲ爲ス以前既ニ或ル一部ノ株主又ハ債權者ニ支拂ヒタルモノアルトキハ如何スヘキヤ

(第十三款 會社ノ清算)



答 或ル株主又ハ債權者へ既ニ支拂ヒタルモノアルトキハ清算人ハ之ヲ取戻シ會社ノ財産ニ回復セサルヲ得サルモノトス

問 此場合ニ於テ若シ其支拂ヲ受ケタル株主又ハ債權者ニシテ既ニ其金額ヲ消費シ亦他ニ財産之レナキトキハ清算人ニ於テ辨償スルノ責任アル歟如何

答 清算人ハ之ヲ辨償スルノ責任ナシ然レモ清算人カ貸方借方ヲ取調へ到底會社ノ現財産ヲ以テ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナル事實ヲ承知シ乍ラ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ若シ之ヲ取戻ス能ハサルトキハ會社ノ他ノ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ

第二百五十四條 總會ノ決議ニ依リテ會社ノ帳簿及ヒ

其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル者ノ氏名住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ツ可シ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責任ヲ負フ

問 會社解散シ清算事務結了シタルトキハ其帳簿及ヒ其他ノ書類ハ如何ニシテ貯存シ得ルヤ

答 清算事務結了シタルトキハ總會ノ決議ヲ以テ帳簿及ヒ一切ノ書類ヲ貯存ス可キ者ヲ定ム而シテ總會ノ決議ニ因ツテ委任セラレタル貯藏者ノ氏名住所ハ清算人ヨリ其地管轄ノ裁判所ニ届出ツ可シ

此届出前ニ在テハ清算人其帳簿及ヒ書類ヲ保存スルノ責任ヲ負フモノトス



第二百五十五條 清算ノ結果即チ左ノ事項ハ清算人ヨリ裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス可シ

第一 支拂又ハ示談ニ因リテ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルコト

第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタルコト及ヒ其分配ノ金額

第三 清算費用ヲ辨濟シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ辨了シタルコト

第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ卸任ヲ得タルコト

第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルコト

第六 會社ノ帳簿又ハ書類ノ其効力ヲ失ヒタルコト

其清算ノ結果ハ亦清算人ヨリ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

問 本條ノ説明ヲ與ヘラレタシ

答 清算人ハ清算ノ結果タル本條掲グル六箇ノ事項ヲ裁判所ニ届出テ且ツ之ヲ公告セサル可ラス清算人ニシテ此手續ヲ爲シタルトキハ清算事務全ク終了シ清算人タルノ資格モ茲ニ於テ消滅スルモノトス



問 本條第一項ノ示談ニ因リテ辨濟シタルトハ如何

答 示談ニ因リ辨濟シタルトハ債權ノ未タ返濟期限來ラサル前債權者ト示談ヲ遂ケ辨償シタル場合ヲ云フ

問 清算人ハ清算ノ結果ヲ地方長官ヲ經テ主務省ヘ届出サルヲ得サル理由ハ如何

答 會社ハ最初主務省ノ免許ヲ得テ設立セシモノナルヲ以テ會社消滅スル場合ニモ亦之ヲ届出サルヲ得サルコトハ當然ノ理由ナリトス

#### 第四節 罰則

第二百五十六條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セ

ラル

第一 本章ニ定メタル登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキ

第二 登記前ニ開業シタルトキ

問 本條ハ商事會社全体ニ適用ス可キモノ歟

答 然リ本條ハ合名會社合資會社及ヒ株式會社共ニ適用スヘキモノトス

第二百五十七條 株式會社ノ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラ

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ